

日本赤十字豊田看護大学 研究シーズ集 2024

学校法人日本赤十字学園

日本赤十字豊田看護大学

Japanese Red Cross Toyota College of Nursing



日本赤十字豊田看護大学 研究シーズ集について

日本赤十字豊田看護大学では関係機関との連携強化を図ること、共同研究を推進することを主な目的として、このたび研究シーズ集を作成いたしました。

本学の各教員の専門分野や研究内容を知っていただくことで、皆様の研究のサポート等にご活用いただき、さらには関心のある方々との連携や、共同研究を進めていく機会となることを期待しております。

各教員が講義・研修可能な内容も掲載しておりますので、ご興味のあるテーマがございましたら、ぜひお気軽に日本赤十字豊田看護大学事務局までご連絡いただければ幸いです。

本学では、大学院看護学研究科 修士課程を開設し、研究者・教育者・高度実践者を養成しております。一部だけ大学院の教育を受けてみたいという方のために、「科目等履修生」、「履修証明プログラム」の制度を設けております。「科目等履修生」は、大学院で開講されている科目を1科目から学ぶことができます。「履修証明プログラム」は「看護教育プログラム」、「看護研究プログラム」、「災害看護実践プログラム」を開設し、これらのプログラムは職業に必要な能力の向上をはかる「職業実践力育成プログラム（BP）」としての認定を受けています。また、博士課程も開設しております。

あわせてご紹介いたしますので、ご不明点等ございましたらお気軽にお問い合わせください。

皆様からのご連絡を心よりお待ちしております。

令和6年10月

【お問い合わせ】

日本赤十字豊田看護大学事務局

E-mail info@rctoyota.ac.jp

TEL 0565-36-5111

2024年度 教員一覧

NO	職名	領域	氏 名	タイトル
1	学長・教授		百 瀬 由 美 子	認知症高齢者ケア・高齢者の防災・減災対策に関する研究
2	学部長・学務部長・教授	基礎看護学	山 田 聡 子	臨地実習指導・現任教育に関する研究
3	研究科長・教授	公衆衛生看護学	長 谷 川 喜 代 美	地域における住民の健康の維持・増進に関する研究
4	学術情報センター・図書館長・特任教授	専 門 基 礎	下 間 正 隆	病院、介護施設の感染対策の向上
5	教授	専 門 基 礎	森 田 一 三	生涯にわたる口腔の健康創造をめざす研究
6		看護管理学	南 谷 志 野	短時間勤務制度・認定看護管理者に関する研究
7		成人看護学	東 野 督 子	医療に関わる看護ケア＆高齢者の口腔ケアに関する研究
8		成人看護学	カ ル デ ナ ス 暁 東	患者のセルフマネジメントと自己概念に関する研究
9		老年看護学	小 林 尚 司	生活の場の看取りケア・高齢者の地域活動促進
10		母性看護学	野 口 眞 弓	ヨーガとソーシャル・キャピタル
11		小児看護学	岡 田 摩 理	小児看護学教育および医療的ケア児に関する研究
12	キャリア支援室長・特命教授		伊 藤 明 子	災害・国際活動における人材育成・看護管理
13	准教授	一 般 教 養	鈴 木 寿 摩	学習の深化を図る対話的・協同的学びの研究
14		一 般 教 養	松 崎 久 美	高等教育の国際化に関する研究
15		基礎看護学	巻 野 雄 介	看護技術や看護教育におけるDXIに関する研究
16		成人看護学	石 黒 千 映 子	がんサバイバーの「自分らしく生きる」を支える
17		成人看護学	栩 川 綾 子	現象学をもとに看護の成り立ちを捉え直す
18		災害看護学	中 島 佳 緒 里	睡眠支援と回復力
19		災害看護学	藤 井 愛 海	災害関連死の予防に関する研究
20		老年看護学	清 水 み ど り	介護保険施設のケアや看取りに関する研究
21		老年看護学	天 木 伸 子	認知症ケア、高齢者の摂食嚥下障害に関する研究
22		在宅看護学	深 谷 由 美	通所介護の看護職や多職種・多機関協働に関する研究
23		母性看護学	岡 津 愛 子	妊産婦のメンタルヘルス・院内助産に関する研究
24		小児看護学	神 道 那 実	子どもの慢性疾患・プレパレーションに関する研究
25		精神看護学	原 田 真 澄	精神障がいをもつ人とその家族の支援に関する研究
26		公衆衛生看護学	清 水 美 代 子	仕事と介護の両立支援に関する研究
27	講師	基礎看護学	竹 内 貴 子	学生への看護過程の教育に関する研究
28		基礎看護学	近 藤 絵 美	急性期病棟での高齢者看護に関する研究
29		基礎看護学	大 西 幸 恵	プロフェッショナリズム教育に関する研究
30		成人看護学	渡 邊 直 美	喉頭摘出術を受けた患者のQOL向上に関する研究
31		災害看護学	長 尾 佳 世 子	災害看護・災害医療に関する研究
32		在宅看護学	武 田 智 美	在宅移行 訪問看護 AYA世代がん
33		母性看護学	千 葉 朝 子	母乳育児をする母親・女性の心地よさに関する研究
34		小児看護学	遠 藤 幸 子	地域における小児看護・保育保健における多職種連携
35		小児看護学	神 谷 美 帆	子どもの力を支える看護に関する研究
36		公衆衛生看護学	大 森 美 保	職場のソーシャル・キャピタルに関する研究
37	助教	専 門 基 礎	高 見 精 一 郎	
38		成人看護学	田 口 栄 子	看護の場におけるユーモアの意味と活用に関する研究
39		成人看護学	谷 口 純 平	せん妄発症予防に関する研究
40		成人看護学	石 田 咲	高齢者の口腔ケア・感染予防に関する研究
41		老年看護学	近 藤 香 苗	高齢者の呼吸機能に関する研究
42		老年看護学	段 暁 楠	高齢者のエンドオブライフケア・センサーとIoT機器
43		精神看護学	飯 田 大 輔	システム理論に基づく組織への支援
44		精神看護学	山 本 壮 則	看護師が行う認知行動療法(CBT)の開発
45	助手	基礎看護学	高 下 翔	エコーを用いた全身麻酔患者に関する研究
46		基礎看護学	福 岡 友 理 恵	実地指導者に関する研究
47		基礎看護学	山 中 大 輔	看護系大学におけるキャリア教育に関する研究
48		在宅看護学	宝 木 百 代	介護支援専門員の医療職者との連携に関する研究
49		成人看護学	石 原 佳 代 子	看護職・介護職の口腔ケアに関する研究
50		母性看護学	草 深 真 菜	産科病棟の災害対策に関する研究
51		小児看護学	鳥 居 賀 乃 子	新生児看護・小児看護に関する研究

百瀬 由美子 (Momose Yumiko)

学長・教授 老年・在宅看護領域



認知症高齢者ケア・高齢者の防災・減災対策に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 認知症高齢者ケアの質向上を目指した研究

認知症高齢者の数は急増していますが、適切なケアが受けられないために症状が悪化する場合もあります。病院や高齢者施設、在宅ケアに携わる看護職、ケアスタッフ、そして学生が、臨場感のある教育が必要と考え、認知症模擬患者を活用した教育プログラムを開発しました。また事例検討をもとにケア場面を再現した動画教材も作成しました。これらを用いて看護職等の認知症高齢者への対応力向上をめざした研修会を企画・実施し、教育効果を検証する研究を継続的に行っています。昨年は対象をアジア圏に拡大し、台湾の認知症グループホームで研修を実施しました。タイの赤十字看護大学とも共同研究を始めています。

2. 災害時要援護者防災・減災対策モデルの構築に関する研究

地震や豪雨等による自然災害が多発しており、認知症高齢者等要援護者が犠牲になることが多いことから、平時からの備えが重要です。そこで、認知症対応型グループホームを拠点とした防災・減災対策の構築に取り組み、避難訓練も一緒に行いました。

◆研究者からのメッセージ

住み慣れた地域で人生の最終段階まで、その人らしく安心・安全に暮らせるために高齢者や家族への支援や質の高いケア方法の開発について、対象者自身や実践する人々とともに取り組んでいきたいと考えています。日頃の看護実践で何とかしたいと感じる課題がありましたら、現場の状況を教えてください。一緒に学びながら、考え、改善に向けて取り組んでいければと思っています。

◆講義・研修可能な内容

1) 認知症高齢者ケアに関する課題、2) 病棟における身体拘束最少化に向けた取り組み、3) 高齢者のせん妄ケアに関する課題、4) 看護実践で感じる倫理的ジレンマへの対応などについて、事例検討や、百瀬研究室で学んだ老人看護専門看護師と共に演習を交えながら臨床現場の課題に取り組んでいければと思っています。

◆研究キーワード

認知症高齢者看護、高齢者の防災・減災対策、高齢者の口腔ケア、看護倫理





臨地実習指導・現任教育に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 臨地実習指導者の役割行動に関する研究

臨地実習は看護学基礎教育において欠かせない教育方法です。臨地実習指導者のみなさんは、その教育方法において大変重要な役割を担っています。学生たちは、臨地実習指導者みなさんの看護実践や看護に向き合う姿勢をモデルとして看護学への学びを深め、将来の自己の看護師像を描きます。では、臨地実習指導者皆さんの役割とはどのようなもののでしょうか。これまで、その役割を研究で明らかにしてきました。研究成果に基づき、臨地実習指導者さんご自身が自己評価できる指標の開発に取り組んでいます。

2. 現任教育に関する研究

院内研究の成果評価、実地指導者や研修責任者の役割、院内研修の効果に関する研究等、医療機関における現任教育に関する研究に取り組んでいます。

◆研究者からのメッセージ

社会の変化に応じて看護教育も転換点を迎えています。これからの医療界・看護界を担う人材を育成していく上で、何をどのように教育することがふさわしいのでしょうか。看護基礎教育において欠かせない臨地実習、新人教育、現任教育など、本質を見極めながら、従前の考え方にとらわれず、皆さんと一緒に、柔軟に創造的に挑戦的に考えていきたいと思っています。

◆講義・研修可能な内容

1. 臨地実習指導者の役割に関する研修
2. 看護基礎教育の動向に関する研修
3. 臨床における看護研究の進め方に関する研修

◆研究キーワード

臨地実習指導者 現任教育 看護研究

長谷川 喜代美 (Hasegawa Kiyomi)

研究科長・教授 公衆衛生看護学領域



地域における住民の健康の維持・増進に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 要介護高齢者及び介護家族への支援に関する研究

高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるようにするためには、要介護高齢者を含む家族のセルフケア能力を高めることが大切です。高齢者や家族がそれぞれ現状を肯定的に受けとめ前向きに生活を送ることができるようにするための支援のあり方について、研究に取り組んできました。

2. 地域防災のしくみづくりに関する研究

地域防災では、住民自身による日ごろからの備えが重要と考えます。地域住民が主体となって防災に取り組むためのしくみづくりについて研究にとりかかっています。

◆研究者からのメッセージ

当事者のもつ力を高め、その人自身が望む生活を継続できるようにするための支援について、当事者や支援者の方々とともに考えていきたいと思っています。

◆講義・研修可能な内容

地域における家族支援

◆研究キーワード

地域 健康づくり 家族支援



病院、介護施設の感染対策の向上

◆研究シーズの内容と研究者からのメッセージ

全国の病院、介護施設の感染対策の向上に取り組んでいます。

◆講義・研修可能な内容

病院、介護施設の感染対策向上に関する講義、研修

◆研究キーワード

病院、介護施設、院内感染、薬剤耐性菌、感染対策、病院清掃



感染対策全般に関する書籍
2016年



CREに関する書籍
2018年



結核の職員健診
2015年

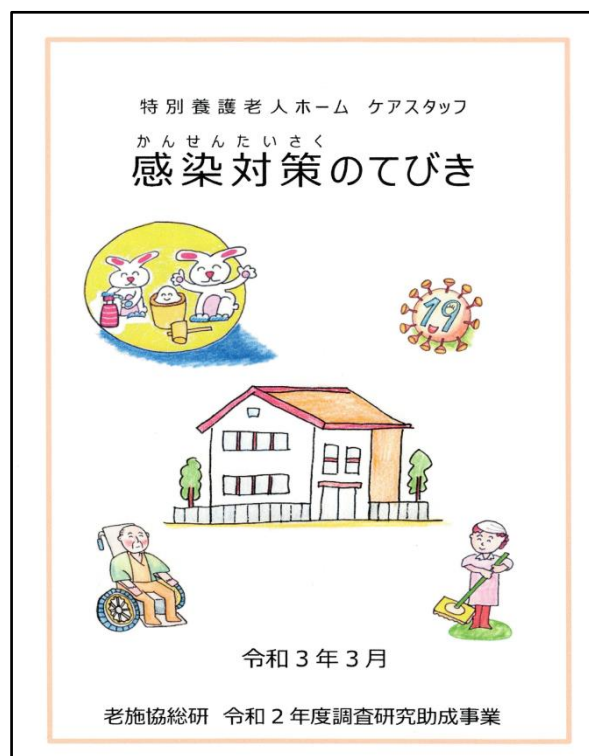


2021年

和歌山県看護協会主催
医療安全研修

コロナの後の
薬剤耐性菌
対策

2024年7月29日(月)
+ 日本赤十字豊田看護大学
下間正隆
Infection Control Doctor



特別養護老人ホーム ケアスタッフ
感染対策のてびき
2021年

日本赤十字豊田看護大学の
ホームページから
pdfのダウンロードができます



生涯にわたる口腔の健康創造をめざす研究

◆研究シーズの内容

1. 口腔機能を保持するための研究（8020達成のための方法論の研究）

8020を達成するための方法を明らかにすることを研究します。また、歯の数のみでなく、口腔機能の維持・向上に関する研究を進めています。

2. 人工知能による口腔の実画像識別技術の研究

口腔の実画像に対する人工知能による識別能力の性能評価や開発を行います。また、治療した部位の識別や治療に用いた歯科材料の識別をする人工知能の開発をします。

3. 新型コロナウイルス感染症の影響に関する疫学的研究

新型コロナウイルス感染症の流行により人々の行動に変化が起き、行動制限がなくなった現在も様々な影響が続いています。歯科受診行動の変化による受診機会の喪失についての研究を進めています。

◆研究者からのメッセージ

口腔機能の低下が全身の栄養状態の悪化、そしてフレイルを招き、これにより高齢者では要介護状態に至るという機序の理解が近年再認識されています。人々の口腔機能の維持には幼少期の口腔機能の獲得や良好な生活習慣、生涯にわたる歯の保有が求められます。すなわち、ライフコースの視点での口腔の健康への対策が肝要となります。さらに社会的な背景も踏まえた、健康となるための環境を創造することが、人々の生涯にわたる口腔の健康をもたらします。

◆講義・研修可能な内容

歯科に関する講義や研修を行うことができます。特に地域歯科保健や学校歯科保健、予防歯科に関わる内容について、公衆衛生、疫学の視点から行います。

◆研究キーワード

歯科学 8020 公衆衛生学 疫学 統計学 人工知能

最近の研究論文

2024 Changes in the Frequency of Dental Clinic Visits, Expenses, and Treatment Type During the COVID-19 Pandemic in Japan

2024 畳み込みニューラルネットワークにおける前歯部画像の回転不変性に関する予備的研究

2023 オーラルフレイルが現れる年齢の推定の試み

2023 Impact of the Coronavirus Disease 2019 Pandemic on Dental Visits in Japan

2023 Discordance between hyposalivation and xerostomia among community-dwelling older adults in Japan

2022 Comparison of two alcohol hand rubbing techniques regarding hand surface coverage among hospital workers: a quasi-randomized controlled trial

2021 要保護児童のう蝕有病状況と生活習慣

2021 高齢者における服薬薬剤成分数と口腔機能低下の関係

2020 Application of Deep Learning in the Identification of Cerebral Hemodynamics Data Obtained from Functional Near-Infrared Spectroscopy: A Preliminary Study of Pre- and Post-Tooth Clenching Assessment

2020 口腔機能低下に伴う栄養障害に対する介護職や医療職の認識状況の特徴

2020 The effect of a 5-year hand hygiene initiative based on the WHO multimodal hand hygiene improvement strategy: an interrupted time-series study

2020 人工知能による前歯部上下反転画像の識別に関する予備的研究

2018 Brain activity in response to the touch of a hand on the center of the back



短時間勤務制度・認定看護管理者に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 短時間勤務看護師との協働に関する研究

多様な雇用・勤務形態の導入が推進され、短時間勤務で働く看護師は増えています。それに伴い、勤務形態の違いという多様性により、看護チーム内に気遣いや気兼ねが生じ、フルタイム勤務看護師の量的・質的な業務負担が増えています。短時間勤務制度を維持するためには、フルタイム勤務看護師と短時間勤務看護師の協働が重要であると考えており、これまでフルタイム勤務看護師の「短時間勤務看護師との協働意識尺度」の開発や協働意識の影響要因の探索を行ってきました。今後は、短時間勤務制度を維持していくための協働意識醸成プログラムを構築したいと考えています。

2. 認定看護管理者の成果の可視化を目指した研究

認定看護管理者ならではの成果を明らかにしたいと考え、認定看護管理者の仲間と共に研究に取り組んでいます。

◆研究者からのメッセージ

すべての看護職にとって働き続けやすい職場環境づくりと看護の質向上の両立を目指して、15年くらい短時間勤務看護師の研究に取り組んでいます。また、自身も認定看護管理者であるという立場と認定看護管理者を養成する立場から、認定看護管理者のプレゼンスを高めるための研究にも取り組んでいきたいと考えています。

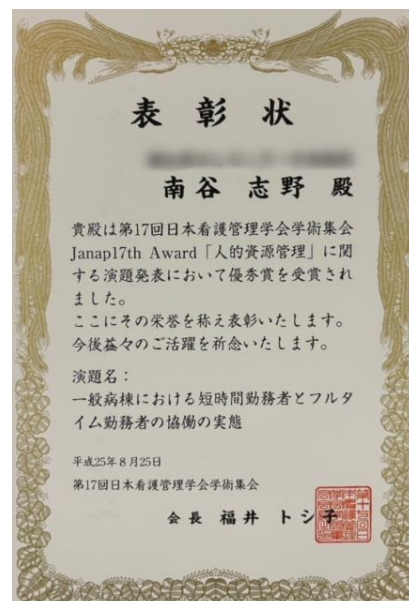
◆講義・研修可能な内容

キャリアに関する内容（キャリア・デザイン、キャリア開発）、働き続けやすい職場環境づくり、リーダーシップ、タスク・シフト／シェア（看護補助者との協働）、組織分析 など

◆研究キーワード

キャリア 就業継続 職場環境 協働 短時間勤務 認定看護管理者

因子（下位概念） Cronbach's α 係数 項目番号と項目内容	第1因子 (I)	第2因子 (II)	第3因子 (III)	第4因子 (IV)
第1因子（差異化意識）α = .915				
34 短時間勤務者は、単純な業務だけを行っている	0.855	-0.016	-0.071	0.017
30 短時間勤務者は、自分たち（フルタイム勤務者）より最新の専門知識が少ない	0.818	-0.006	-0.094	-0.005
36 短時間勤務者は、患者の把握が十分にはできない	0.816	0.061	-0.117	-0.041
25 自分たち（フルタイム勤務者）と短時間勤務者とは、果たす役割が違う	0.737	0.001	-0.048	0.029
27 自分たち（フルタイム勤務者）と短時間勤務者の間には、見えない壁がある	0.696	-0.072	-0.013	0.108
33 短時間勤務者は、忙しい部署の補充要員のようだ	0.667	0.023	0.006	-0.110
28 短時間勤務者には、やればできるのに「やらない業務」がある	0.658	0.061	0.229	-0.320
29 短時間勤務者は、やればできるのに「やらない業務」がある	0.627	0.158	0.203	-0.116
26 自分たち（フルタイム勤務者）は、業務に関して短時間勤務者に指示をする立場にある	0.614	-0.132	0.049	0.030
37 自分たち（フルタイム勤務者）は、業務に関して短時間勤務者では、職務上格差があるのは仕方がない	0.613	0.100	0.066	-0.068
15 短時間勤務者の業務は、責任が軽い	0.516	-0.076	0.196	0.151
21 短時間勤務者とは、あまり交流がない	0.480	-0.039	-0.160	0.193
16 短時間勤務者は、自分たち（フルタイム勤務者）より気楽だと思う	0.425	-0.119	0.181	0.208
第2因子（おかげ様意識）α = .871				
44 短時間勤務者がいるおかげで、自分たち（フルタイム勤務者）も勤務の融通が利くようになった	-0.066	0.846	0.047	-0.071
43 短時間勤務者がいるおかげで、職場の人間関係が良くなった	-0.046	0.750	0.056	0.043
46 短時間勤務者がいつも日勤で働いているおかげで、患者はなじみやすくなり、看護チームとしても患者情報のもれが少なくなった	0.195	0.735	-0.113	0.054
45 短時間勤務者がいるおかげで、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活）を大切にできる職場風土が生まれた	0.130	0.702	-0.177	0.134
41 短時間勤務者がいるおかげで、患者と多く関われるようになった	-0.218	0.696	0.174	0.047
第3因子（しわ寄せ意識）α = .840				
18 自分たち（フルタイム勤務者）が、短時間勤務者の業務のフォローをしている	0.000	0.008	0.848	-0.150
17 短時間勤務者のために、自分たち（フルタイム勤務者）の業務に「しわ寄せ」がきている	0.015	-0.004	0.814	0.103
19 短時間勤務者の働き方に関する要望を受け入れるために、自分たち（フルタイム勤務者）が不利益を被っている	0.093	-0.046	0.583	0.244
第4因子（お互い様意識）α = .678				
7 「お互い様」だと思う	0.045	-0.026	-0.002	0.583
3 自分たち（フルタイム勤務者）も、短時間勤務者に助けてもらっている	0.039	0.108	0.113	0.554
1 短時間勤務者の分も、業務を余分にやっても構わない	-0.090	0.099	0.033	0.507
2 いずれ自分も短時間勤務をして、みんなに助けてもらわないといけない時が来るかもしれない	-0.115	0.012	-0.042	0.493
4 スタッフ同士で補い合う職場風土がある	0.119	0.135	-0.081	0.440
尺度全体 α = .895				



東野 督子 (Higashino Tokuko)

教授 成人看護学領域



医療に関わる看護ケア & 高齢者の口腔ケアに関する研究

◆研究シーズの内容

1. 医療にかかわる看護ケアの質向上を目指した研究

医療にかかわる看護職の皆さんが療養環境を介する接触伝播を遮断するための手指衛生のタイミングや効果的な清掃方法の検討、加えて感染予防の技術を修得するための教育プログラムの開発や医療施設で疑問に思うことについて科学的に検証し実践に生かせる研究を目指しています。

2. 高齢者の口腔ケアに関する研究

「人生100年時代」を迎えるにあたり、口腔ケアは、口腔機能の改善、誤嚥性肺炎を低減できるばかりでなく歯周病菌が動脈硬化、脳梗塞、心筋梗塞などの心臓病、糖尿病、早産など全身の病気を引き起こすことより予防の効果が期待されています。また、口腔の機能低下は社会生活や精神活動にも影響を及ぼすことが示されています。口腔ケアにかかわる医療職の方々が実践する上で必要となる知識や技術などについて学べるプログラムや、医療職の皆さんが実践に活かしていただける研究を目指しています。

3. 他職種連携に関連する研究

多様化する現代は、他職種が連携した視点での研究が求められ、実践可能な研究を目指しています。

◆研究者からのメッセージ

看護における研究は、看護学の発展に寄与するために、自身が明らかにしたいと思ったことを探求します。1つの探求は、限られた時間で課題をまとめるため、楽なことばかりではない一方で、新たなことを発見できることに喜びを感じます。しかし、楽しいと思えなくては続けられません。私たちは、楽しいと思える方法や技術、そして楽しいと思える雰囲気をとともに体験しながら支援する準備ができています。どんな些細なことでも探求したいと思われることがありましたら是非ともお声がけください。ともに探求できたら嬉しく思います。

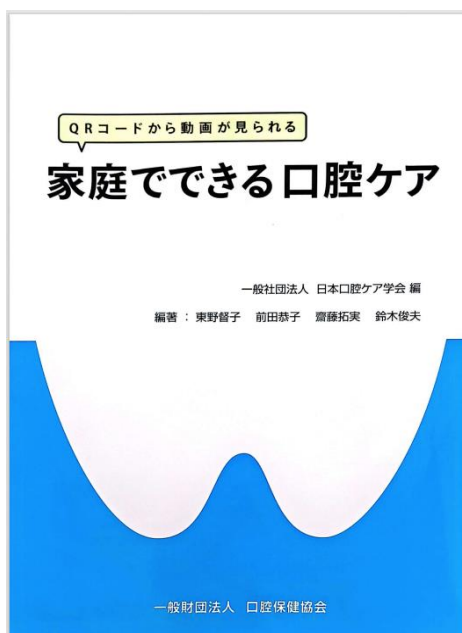
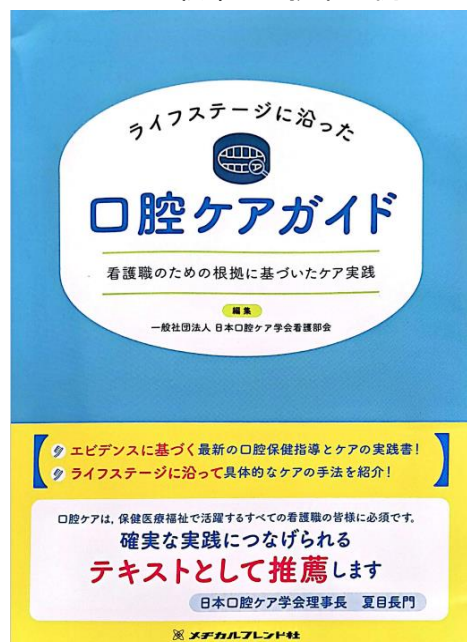
◆講義・研修可能な内容

「実践に役立つ口腔ケアに関連する講義・研修」、「人生100年時代に必要な健康予防方法に関連する講義・演習」、「医療施設や家庭でできる感染予防のためのミニレクチャーおよび体に付着する常在細菌を見る実験演習」、「現在の医療動向と看護について」他

◆研究キーワード

口腔ケア、クリティカル看護、感染予防看護、教育プログラム、実験研究、質問紙調査

これまでに執筆した教本の例





患者のセルフマネジメントと自己概念に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 慢性の病気をもつ人のセルフマネジメントに関する研究

慢性の病気をもつ人は、疾患の不可逆的な変化により治癒が望めないため、生活の中に治療を取り入れ、生涯にわたり病気を管理していく必要があります。これまでに、主に2型糖尿病やアトピー性皮膚炎、SLEの慢性の病気をもつ患者のセルフマネジメント能力を高める研究を行ってきました。現在は慢性心不全や尋常性乾癬の患者のセルフマネジメントに関する研究も行っています。

2. 慢性の病気をもつ人の自己概念に関する研究

疾患の症状や治療薬の副作用によって、ボディイメージの変容が生じてしまう患者は、周囲の人々の関わりを自ら遮断しネガティブな感情を抱きやすく、患者のQOLの低下を招きかねません。これまでに患者が語った【なりたい自分像】を表現するメイクセラピーを用いて、患者のボディイメージの再形成とQOLの向上に関する研究を行ってきました。今は外見変化のあるSLE女性患者に対するメイクセラピーによるベネフィット・ファインディング獲得と生活の質の向上における効果を評価する研究を行っています。

◆研究者からのメッセージ

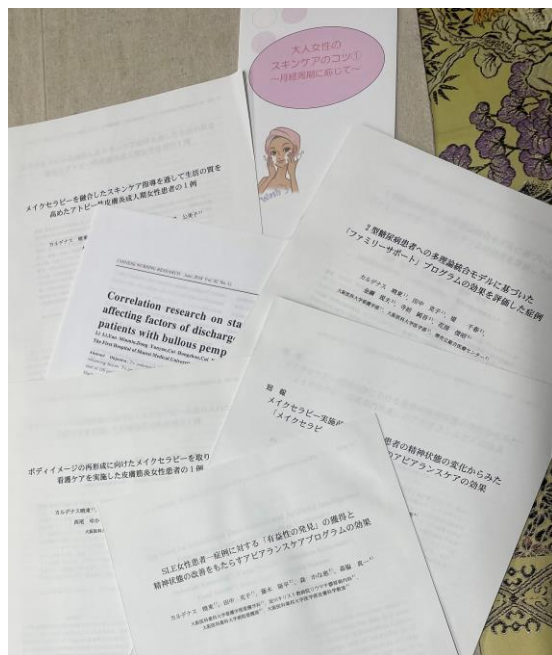
慢性の病気をもつ人々は、病気の体験からポジティブな意味を見出し、病気をマネジメントしながらイキイキとした社会生活が送れるため、その人らしさを尊重したオーダーメイド的な看護ケアについて、患者・家族、看護職を含めた関連医療従事者とともに検討していきたいです。

◆講義・研修可能な内容

- ・ 外見変化のある患者の自己概念、特にボディイメージの再形成をもたすメイクセラピーやカラーセラピーについて
- ・ 慢性の病気を持つ患者のセルフマネジメントについて

◆研究キーワード

慢性看護、セルフマネジメント、ボディイメージ、自己概念、



小林 尚司 (Kobayashi Naoji)

教授 老年看護学領域



生活の場の看取りケア・高齢者の地域活動促進

◆研究シーズの内容

1. 生活の場における看取りケア

特別養護老人ホームの看取りケアとは何かを現場の看護師とともに考え、実践方内容を作ってきました。現在では、利用者のほぼすべての方が施設内看取りを希望するとともに、その希望に応えることができるようになりました。引き続き、介護施設のよりよいケアとは何か、施設の特徴に応じて探っています。

2. 高齢者の地域活動推進

現在は、地域の課題は地域で解決を図る行政運営が求められるようになりました。その際に重要になるのが、地域に住むまだまだ活動力のある高齢者が、地域の課題解決に向けた活動に参加していくことです。それは、地域課題の解決だけでなく、高齢者自身の健康を増進させます。そんな高齢者の参加を促進する活動が作れないかと考えています。

◆研究者からのメッセージ

平均寿命は現在も延びており、老いてからも長く生きる人が増えるとともに、その期間が延びていと言えます。そのため命の続く間、可能な限り自立的・健康的にその人らしく生きることが、とても大切なことだと考えます。老いてからの、自立や健康、その人の幸せとは何か、そのために求められる支援はどのようなものかを、現場で実践する皆さんと考えたいと思います。

◆講義・研修可能な内容

老年期、認知症については、講義・研修ができると思います。また、現在は複数の病院で看護研究の指導に携わっています。

◆研究キーワード

エンド・オブ・ライフ・ケア 介護施設 地域共生

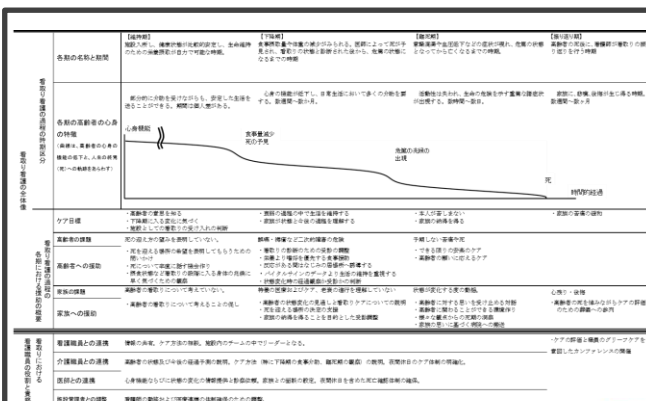
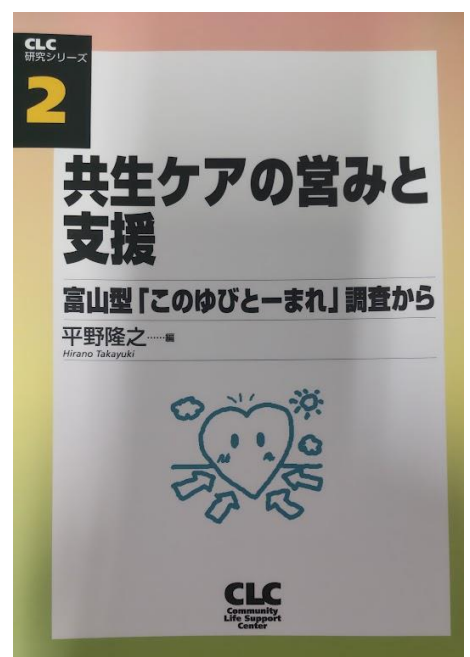


図1. 看取り看護の概念的知識獲得のための研修教材





ヨーガとソーシャル・キャピタル

◆研究シーズの内容

1. マタニティ・ヨーガ

科学研究費の交付を受けて「マタニティ・ヨーガの効果の検証と最適化に関する研究」および「マタニティ・ヨーガの産後うつへの低減効果とその最適化に関する研究」を行っています。マタニティ・ヨーガを何回すると効果がある？マタニティ・ヨーガの効果は、妊娠中も産後もあるのか？マタニティ・ヨーガを継続する要因は何か？などを明らかにしています。

2. ソーシャル・キャピタル

科学研究費の交付を受けて「育児をする父母のソーシャル・キャピタルを醸成するアクション・リサーチ」および「高齢者と子育てをする父母のソーシャル・キャピタルを醸成するための支援モデルの開発」を行っています。人間関係の作り方が変化するなか、育児をする父母は居住する地域からのサポートを受けにくくなっています。楽しく育児をする環境は何か、どうするとよいかを探求しています。

◆研究者からのメッセージ

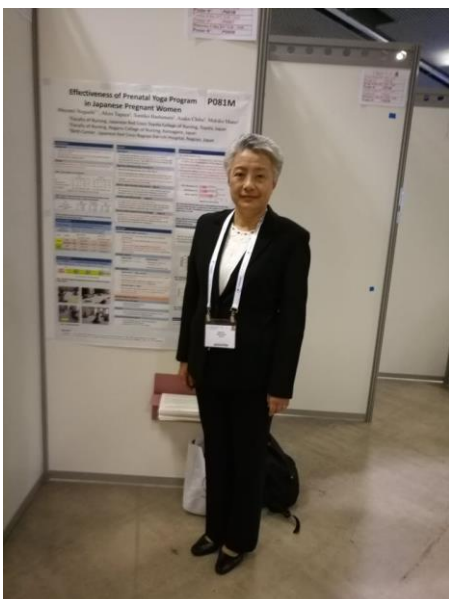
研究することは、多くの人に助けていただき、私の多くの時間を差し出します。助けていただいた方に感謝して、それに報いるためにも努力します。早くできる人と比較することをやめて、文献を十分に調べ、理解できるまで読み込み、私の考えに矛盾がないかを十分に検討します。ゆっくりですが、焦らず、確実に、一步をすすめています。

◆講義・研修可能な内容

主に質問紙や測定を行う量的研究をしており、研究デザインを考えることも好きです。研究デザインや質問紙の分析については、大学院でも担当しており、講義することはできます。ソーシャル・キャピタルの研究では、フィールドワークもしており、初歩的な質的分析についても講義することはできます。

◆研究キーワード

マタニティ・ヨーガ ソーシャル・キャピタル



シンガポールでの発表



スペインでの発表



小児看護学教育および医療的ケア児に関する研究

◆研究シーズの内容

- ## 1. 思考を育てる看護教育の指導方法（学部生および専門看護師）

看護教育では、技術の基盤となる思考力の育成が重要だと考えています。思考力は、安心できる環境で楽しく学ぶことや、適切な対話・振り返りの中で養われることを研究的に明らかにし、その成果を参考書としてまとめてきました。課題のある学生の態度面も含めた指導方法についても検討しています。

- ## 2. 医療的ケア児と家族の支援の在り方（多職種連携を中心に）

近年、医療的ケア児の増加に伴い、病院での看護のみならず、地域の訪問看護、福祉施設、教育施設などの幅広い分野で、看護の力が必要となっています。私達のチームが研究を始めた10年以上前と比較すると沢山の進歩がありますが、未だ過渡期であり、多職種連携や対策には課題があります。子どもや家族にとってどういう形がベストなのか、一つ一つ丁寧に考えることで、改善の道につながると信じています。

◆研究者からのメッセージ

看護教育については、学部生のみならず、専門看護師コースにおける思考の育成にも取り組んでいます。経験を重ねたベテランの能力に加えて、体系的な知識と深い思考力、根拠をふまえた分析力を養うことで、子どもや家族の最善の利益を実現する看護師になれることを研究的にも明らかにしたいと考えています。

医療的ケア児支援については、臨床現場の皆様とともに、よりよい支援を模索したいと考えています。沢山の実践家のお力を借りながら、研究を行っています。

◆講義・研修可能な内容

1. 看護基礎教育や小児看護領域における学生指導について
2. 医療的ケア児支援に関すること
3. 子どもや家族の権利や倫理に関すること

◆研究キーワード

小児看護学教育 医療的ケア児 多職種連携 子どもの権利や倫理

学生用参考書

小児看護学 実習 ハンドブック

著者 泊祐子 岡田摩理

教員・指導者向け参考書

小児看護学 実習指導 ガイドライン

著者 泊祐子 編著
小児看護教育方略研究会

「子どもとの関わりを楽しんでほしい」

「子どもとの関わりを楽しんでほしい」

あなたならどうする？

突然に学生が経験したことを事例としてあげ適切な行動を考えるなかで、子ども・家族の理解・対応を学ぶことができます

中央出版

新人からベテランまでの
教員・指導者に必携の一冊

もっと学生の気づきを引き出す実習指導がしたい！

知識を活用して判断できる看護師を育てたい！

文芸春秋出版（全4冊）10月14日発行

伊藤 明子 (Ito Akiko)

キャリア支援室長・特命教授



災害・国際活動における人材育成・看護管理

◆研究シーズの内容

1. 国際活動における看護職の人材育成

気候変動により多発する自然災害や様々な社会情勢により人道危機に苦しむ人々の数は、急増しています。あらゆる状況下で苦しむ人々を助けたいと国際活動を志す看護職の方々に対して、国際活動におけるジェネラリストの育成に従事してきました。その研修プログラムをもとに、継続的な人材育成や研修プログラムを検討します。

2. 国際赤十字における看護管理者の育成

国際活動における赤十字の看護管理者は、多国籍の医療スタッフや多様な背景をもつ受益者とともに、赤十字の理念を具現化する上で重要な存在です。国際活動における看護管理者の活動内容や求められる能力等を明確にし、今後の人材育成の研修プログラムを構築することに取り組んでいます。

◆研究者からのメッセージ

国内の災害では、東日本大震災や熊本地震において、災害本部での調整・支援活動や病院支援のコーディネーターに従事しました。また国際救援活動では大規模自然災害や紛争地域での災害救援活動や紛争地域での赤十字国際委員会の病院支援の責任者としての活動をしてきました。

人道危機に苦しむ人々に支援をできる人材を育成すること、また実践を研究的にまとめることの重要性を認識しています。皆様と一緒に様々な人道危機について考え、私たちにできることから始めましょう。

◆講義・研修可能な内容

災害看護と災害時の看護管理・人材育成に関すること、国際救援・人材育成に関する講義、赤十字について、国際人道法等について経験を交えながら講義・研修を行います。

◆研究キーワード

人道支援 赤十字 災害 国際救援 紛争 人材育成 看護管理

Japanese Journal of Disaster Medicine (J. J. Disast. Med.)
Copyright © 2024 by Japanese Association for Disaster Medicine

Vol. 29 No. 1
Printed in Japan

事例報告

国際要員を目指す看護職の看護実践力の強化研修と今後の課題

伊藤 明子^{1,2,*} 関塚 美穂³

要旨 海外の人道危機の増加に伴い国際救援活動のニーズは高まっている。国際活動に従事する看護職には幅広い対象の様々な疾患や外傷に対応できるジェネラリストとしての看護実践力が求められる。日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院では、国際要員を目指す看護職の育成を目的として、プログラムは研修者の背景や目標に基づき選択した研修内容をローテーションするOJTと、国際医療機関でのOJTを融合させている。OJT内容はEMTで提供される医療サービス21/27項目を網羅している。修了者23名は、災害救援、紛争地での人道支援や開発協力などに延べ58回派遣されており、3名は管理職的な役割を担う者もいた。成人教育を基盤とした本研修は、教育機関ではなく医療施設の臨床現場を活用したプログラムであり、より効果的な研修とするためには、国際基準として定められている看護実践内容を踏まえ、感染管理、Community Engagement and Accountability、Protection、Gender and Inclusionなどを研修に包含する必要がある。

1. 背景と目的

長年続く紛争や迫害による人道危機、気候変動に伴う大規模な自然災害の被災者数は急増している。日本赤十字社（以下、日赤）は、赤十字国際委員会（International Committee of Red Cross: 以下、ICRC）、国際赤十字・赤新月社連盟（以下、IFRC）、および、各国赤十字・赤新月社の相互の協力体制のもとに、資金・物資の提供や救援要員の派遣などの緊急救援・復興支援を展開し、さらに、長期的にわたる被災者のニーズに対して活動を行っている¹⁾。

国際活動は、業務遂行ができる英語力（TOEIC 730点以上）があり、国際赤十字で標準化された規定の研修を修了し、登録された国際救援・開発協力要員（以下、国際要員）によって行われている。その登録のプロセスは、英語でのE-learning「国際救援・開発協力要員研修Ⅰ（World of Red Cross and Red Crescent: WORC）と安全管理研修Ⅰ（Stay Safe Personal Security）」を修了後、国際救援・開発協力要員研修Ⅱ（International Mobilization and Preparation for Action: 以下、IMPACT）、または、保健医療 Emergency Response Unit（以下、ERU）研修の修了をもって、国際要員として登録される。その国際要員は、2国間協力（日赤と他赤十字・赤新月社）、IFRC、ICRCの事業に派遣される。

日赤の国際活動の派遣者数は、1961年から2021年9月末まで1964名（うち看護職749名）であり、1990年代からは派遣者数が増加している。派遣組織別で

©ICRC

©日本赤十字社



学習の深化を図る対話的・協同的学びの研究

◆研究シーズの内容

1. 批判的思考力育成を促す協同学習の研究

高等教育における「英語リーディング」授業では、語彙・文法知識を活用した英文理解にとどまらず、テキストの内容を批判的にとらえ、自らの経験に照らして解釈し、その学びを生活に役立てる深い読解力が求められます。このような批判的思考力を伴う読解力の育成を目指すため、協同学習を基盤としたLTD（Learning Through Discussion）が提唱されています。LTDを通じて個人やグループ内に起こるさまざまな認知のおよび態度的変容を観察・分析し、読解授業の改善を目指すことをテーマに研究しています。

2. ESP (English for Specific Purposes) としての看護英語の教授法の研究

「看護英語」「医療英語」など特定の目的のための英語学習には、専門用語の難しさに加え、用語の使用場面での専門知識が必要とされます。専門用語をいかに楽しく学ぶか、語学学習にいかに専門知識を組み込むかが課題です。また専門教育との連携を図ることも効果的なESP学習の鍵だと考えています。

◆研究者からのメッセージ

「英語は苦手」とよく耳にします。でも周りを見渡せば、たくさんのアルファベットやカタカナがあふれていて、それらは全て英語学習の「シーズ」です。既存の知識と単語が結び付くと「そうだったのか!」「わかった!」と感激するものです。そんな英語学習のコツをお伝えできたらと思っています。

◆講義・研修可能な内容

病院内での英会話

効果的な語彙習得法

◆研究キーワード

協同学習 LTD話し合い学習法 看護英語



高等教育の国際化に関する研究

◆研究シーズの内容

1. グローバリゼーションと高等教育の国際化

グローバル化した世界では、多様性への視線が注がれる一方で、世界モデルの価値観が築かれ教育の均質性は高まっています。高等教育においては、教育制度や教授言語の英語化など優位な立場をとる制度へと統一されている傾向があります。そうした国家や機関レベルの政策に対し、個人（ミクロ）はどのように高等教育を認識し、進学選択をしているのでしょうか。グローバリゼーションと高等教育の国際化が構築する社会と個人の関係を留学生の動向に着目して研究しています。

2 非英語圏における英語化と留学生の移動

グローバル化やインターネットの普及により、英語がリンガフランカ（世界共通言語）としての地位を確立し、学術世界においても研究・教育の中心言語となっています。これまで留学は英語圏が主流でしたが、非英語圏におけるEMI（English Medium Instruction）＝英語による学位取得プログラム、の拡大により留学の行き先は多様化しました。しかし、学術言語と社会の言語が異なる環境における留学は複雑な課題を呈しています。EMI留学という現象について研究をしています。

◆研究者からのメッセージ

留学は、英語を学ぶことを意味しているわけではありません。ライフコースの一過程で、その動機と阻害する要因の関係を見出し、さらに留学経験を経てその動機の変容を認識するプロセスを理解することに取り組んでいます。留学という現象を単なる海外経験や語学学習と考えるのではなく、その背景にある社会構造を知ること、日本社会や高等教育への示唆が得たいと思います。

◆講義・研修可能な内容

高等教育の国際化、海外留学制度と動向、高校生の海外進学、多様性理解

◆研究キーワード

高等教育 高等教育の国際化 海外留学 EMI



看護技術や看護教育におけるDXに関する研究

◆研究シーズの内容

1. 超音波画像診断装置（エコー）の看護技術への応用

エコーは侵襲を伴うことなくリアルタイムに体内を可視化する医療機器です。近年のこの装置の進歩は目覚ましく、その画像の鮮明さや持ち運びのしやすさにより、今ではナースフレンドリーなものとなっています。エコーを用いた研究も盛んに行われており、より安全で効果的な看護技術の開発にも役立っています。私はエコーを使った末梢静脈穿刺に関する研究に取り組んでいます。視診や触診ではわかりづらい静脈の位置や深さや太さといった特徴を正確に捉えることができるため、成功率の上昇に寄与することができます。

2. 実習記録の電子化

医療分野でもDXが推進される中、看護学生においてもデジタル技術活用の端緒を得ることは重要だと考えます。これまで紙媒体で運用してきた実習記録をデジタル化し、効率的に物事を進め患者ケアを行う時間を確保する一方で、個人情報情報を慎重に取り扱うスキルを身につけさせたいと考えています。

◆研究者からのメッセージ

新たな看護技術の開発においては、臨床での実践と効果検証が不可欠です。臨床のみなさまと一緒によりよい患者ケアを目指した研究に取り組みたいと考えています。

◆講義・研修可能な内容

看護分野におけるエコーの使い方

病態生理を踏まえたヘルスアセスメント

など

◆研究キーワード

看護技術 看護理工学

エコーを使った末梢静脈穿刺に関する研究論文

JNSE, 8: 86~100, 2021

Original Article

Validation of ultrasound-guided peripheral intravenous catheterization with a probe holder compared to the traditional technique:
A single-case experimental study

Yusuke Makino¹⁾; Mika Miyagawa²⁾ and Michiaki Kai³⁾

¹⁾ School of Nursing, Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

²⁾ Department of Nursing, Oita Memorial Hospital

³⁾ School of Nursing, Oita University of Nursing and Health Sciences

(研究にあたって作成した装置)

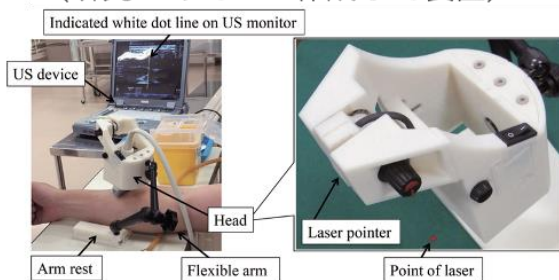


Figure 1 The probe holder

がんサバイバーの「自分らしく生きる」を支える

◆研究シーズの内容

1. 婦人科がんサバイバーを対象とした心理教育プログラムの構築に関する研究

婦人科がん（子宮がん、卵巣がんなど）の治療を受けた人が、妊孕性の喪失など、疾患や治療に伴って生じる様々な出来ごとに対処しながら、その人が持っている「健康へと向かう力」を引き出すための心理教育プログラムを構築し、その効果を検証するための研究に取り組んでいます。

2. 造血幹細胞移植を受ける血液がんサバイバーのメンタルケアに関する研究

造血幹細胞移植を受ける血液がんサバイバーの、移植前から移植後までの心的体験を理解し、移植前から社会復帰後までの継続した心理的支援について、臨床心理士の立場から研究に取り組んでいます。

3. Multimorbidityのがんサバイバーのニーズを踏まえた外来での支援に関する研究

糖尿病を併せ持ちながら化学療法を行うがんサバイバーが抱えている支援ニーズと、外来看護師および特定分野の専門性を有する看護師による支援を明らかにしたうえで、外来における看護体制にあった支援モデルの構築を目指し、研究に取り組んでいます。

◆研究者からのメッセージ

がんサバイバー（がん体験者）が、様々な出来事に対処しながらも「自分らしく生きる」ことができるよう、がんサバイバーの方々および臨床の場で活動している方々と共に、ケアの研究開発に取り組んでいきたいと考えています。

◆講義・研修可能な内容

大学では、慢性看護やがん看護、緩和ケア、心理療法に関する科目を担当しています。

皆様と一緒に学びを共有したり深められたりする場を提供させていただきたいと考えています。

◆研究キーワード

がんサバイバー サイコオンコロジー 緩和ケア Multimorbidity

Regular articles ◆ 研究者の最新動向

外来における糖尿病とがんを併せ持つ患者への支援にむけて

Outpatient nursing for multimorbidity patients with diabetes and cancer

1) 日本赤十字 豊田看護大学
Japanese Red Cross Toyota C
2) 相山女学園大学
Sugiyama Jogakuen Universit

石黒 千映子¹⁾・生田 美智子²⁾
Chieko Ishiguro Michi

— 最先端医療の今 —

がんと糖尿病を併せ持つ患者の支援の現状と課題

Current status and issues for multimorbidity patients with diabetes and cancer

石黒 千映子¹⁾・生田 美智子²⁾
日本赤十字豊田看護大学／相山女学園大学

■Abstract■

がんと糖尿病を併せ持ち外来化学療法を行っている患者にとって、血糖コントロールは予後に影響するだけでなく、がん化学療法の治療の完遂、治

造血細胞移植を受ける患者の心理とサポート

石黒 千映子¹⁾・小松 弘和²⁾・飯田 真介²⁾
上田 龍三²⁾・米倉 五郎³⁾

は、身体機能の検査や移植に関するオリエンテーションが行われていく。

移植について説明を受け、自己決定を迫られた患者の現状は、『治療を受け入れることを決断しなければならぬプレッシャーと、治ることへの期待との間で揺らぎ』（佐々木ほか、1998）、『患者の30～50%が、抑

Key Words: multimorbidity, cancer, diabetes, chemotherapy, cancer nursing

実現するうえで重要である。

本稿では、がんと糖尿病を併せ持つ患者の



現象学をもとに看護の成り立ちを捉え直す

◆研究シーズの内容

1. 現象学

現象学のモットーは、「事象そのものへ立ち返る」ことです。看護は、看護の質の向上のため、科学的な実践を求めます。一方で、患者にじかにかかわる看護実践は、どうしても科学的に説明できない事象があるのも事実です。そのような看護の事象は、現象学の見方を参考にすることで明らかにできます。それにより、これまでとは異なる新たな視点で事象の成り立ちを明らかにでき、看護の意味を考え直すことを可能にします。この魅力に導かれ、修士・博士課程また現在でも、現象学的研究を行っています。

2. 看護師の実践

看護師は、看護をいかに成り立たせているのでしょうか。基礎教育では、看護過程という科学的な思考を習得してきました。しかし実際の看護は、思考だけの実践ではありません。人間は、身体を有しています。この身体の次元から患者と交流しながら、看護を成り立たせているのです。看護は、人間存在をもとにした実践であり、これこそが、看護が人間科学であるゆえんなのです。改めて、看護師の実践をその事象から捉え直してみると、その奥深さに驚かされます。

◆研究者からのメッセージ

看護は、人間が人間へ応答する人間的な営みです。看護師は、患者との交流を確かに感じながらも、それがはっきりと説明できず、もどかしさを感じているのではないかと思います。既存の概念や理論から考えるのではなく、まず看護の事象に立ち返りませんか？それにより、看護の意味が見えてきたとき、自分の存在をもって患者に向かい合い、確かに看護をしていたと自覚することが出来ます。

◆講義・研修可能な内容

現象学の思想を基にした、看護の成り立ちについて
質的記述的研究について

◆研究キーワード

質的記述的研究 現象学的研究 看護師の実践

原 著

身体が織りなす看護の営み

—急性期にある糖尿病足病変入院患者と看護師の関係の現象学的研究—

A Way of Nursing through The Physical Involvement with Patients
—A Phenomenological Study of The Interactions between Inpatients
with Acute Diabetes Foot Lesions and Nurses—

栩川 綾子 ^{1),*}

Ayako Tochikawa

キーワード：糖尿病足病変入院患者、現象学的研究、身体

Key words: inpatients with diabetic foot lesions, phenomenological approach, body

Abstract

Purpose: This study describes the experiences of nurses in interactions with inpatients with diabetic foot lesions, focusing on daily occurring situations where ward nurses respond in situations involving patients with foot lesions.

Methods: Using a phenomenological approach based on the body-theory of Merleau-Ponty, and data collected through field observations and interviews with individual nurses, we describe situations where nurses provided care for patients with foot lesions.

Results: Participant nurse C perceived an "absent-minded" feeling of a patient during the interaction when checking physical conditions of the patient. It was manifested in a slow and self-paced attitude unique to patients in diabetes treatment from which nurses gain information about the life of the patient before hospitalization. When participant nurse E perceived that the patient felt pain from the way of breathing and distorted facial expression during the foot lesion care, she put her hand on the arm of the patient. Reacting to this attitude of the nurse showing awareness of the pain, the patient developed fears during the daily care.

Conclusion: Nurses perceive important points for the nursing from the symptoms and distress expressed by patients. The perceptions of nurses are not subjective because they arise from the interactions with patients through the physical involvement, but are a key element to develop the relationship with patients.

原著

糖尿病足病変患者と看護師の入院時におけるかかわりの成り立ち

—身体性に注目して—

Building a Nursing Relationship with Hospitalized Patients with Diabetic Foot
—Focusing on the Embodiment—

栩川 綾子

Ayako Tochikawa

首都大学東京大学院人間健康科学研究科 Graduate School of Human Health Sciences, Tokyo Metropolitan University

本研究の目的は、糖尿病足病変入院患者を看護する看護師の経験から、患者とのかかわりがいかに成り立っているのかを身体性に注目して記述することである。足病変患者の看護経験がある看護師に、非構造化面接を実施し、現象学を手がかりに2名の参加者のかかわりを記述した。参加者A氏は、患者の痛みやその生活の現状を自分の身体に投映させながら理解していた。また、足病変や健康を知覚することで、患者の過去や現在の治療状況・医療システムを背景にそれらの意味を捉えていた。参加者B氏は、患者の治療を共にするなかで、患者の苦悩や治療の意味を身体から分かるようになった。かかわりは、このような看護師の身体を経験をもとに成されていたのであった。

足病変患者への看護のかかわりは、身体からの応答として成り立っていることが明らかになった。これは、知識をもとにして思考することとは別個の、身体で応じる中で自然と生起するものと考えられた。

キーワード：糖尿病足病変入院患者、かかわり、現象学

The aim of this study is to describe how the relationship with patients is built in terms of the experiences of nurses who provided care to hospitalized patients with diabetic foot, focusing on the embodiment. Unstructured interviews were conducted with nurses experienced in caring for patients with diabetic foot. The relationship of two participants with their patients was described in the framework of phenomenology.

Participant A understood patients' pain and their living situation through body contact with them. In addition, by perceiving patients' diabetic foot or healthy limb, he grasped the meaning of these in context of the patients' past or current treatment as well as the medical system. Participant B understood the meaning of patients' distress and treatment through her body as she shared the patients' treatment. The relationship was built based on these experiences from body of nurses.

The relationship of patients with diabetic foot and nurses was found to be built responses from body. It was thought that this nurses spontaneously responded, which is different from thinking based on knowledge.

Keyword: Hospitalized Patients with Diabetic Foot, Relationships, Phenomenology



睡眠支援と回復力

◆研究シーズの内容

1. 睡眠・リラクセーションに関する研究

ICUに入室した人工呼吸器装着中の患者の多くは睡眠障害を抱えています。睡眠障害は、自律神経活動や長期的な認知機能の低下にも影響を与えるため、睡眠の質を改善することは重症患者の快適性の向上や健康状態の回復に重要なケアと考えます。そこで、重症患者を対象に非薬理的介入（軽擦法）を用いた睡眠促進プロトコルを開発し、効果検証を行っています。

2. 個人のもつレジリエンスに関する研究

被災地におけるボランティア活動において、学生個人のレジリエンスを基本とした活動後の回復性や体験の捉え方を検討しています。レジリエンスの高い学生は活動後の精神的回復力も高く、活動そのものをポジティブに受け止める傾向があること、レジリエンスの低い学生は活動を否定的にとらえる傾向があり、これらの特性を踏まえた活動前後のフォローアップを検討する研究を進めています。

◆研究者からのメッセージ

患者の安楽や安寧を提供できるケアとは何かを大切に研究を行っています。主に実験的手法を使ってケアのエビデンスを作ることに取り組んでいます。

◆講義・研修可能な内容

- ・看護研究（主に量的研究、文献の読み方）
- ・リラクセーションの測定方法

◆研究キーワード

睡眠、安楽、リラクセーション

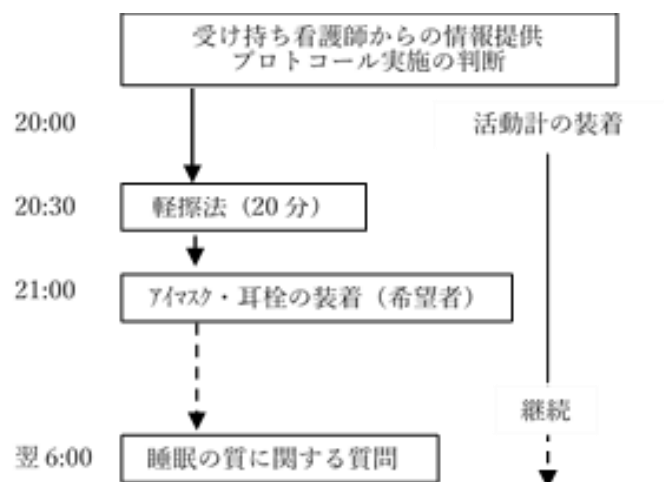


図 睡眠促進プロトコル



災害関連死の予防に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 災害時要配慮者を支えるコミュニティづくりを目指した研究

災害時、健康リスクが特に高いと言われる高齢者・障がい者・慢性疾患を持つ方・乳幼児・妊産婦などの要配慮者が、健康を害することなく避難生活を送るためには、平時からの減災活動が重要であると考えています。これまでに、糖尿病を持つ方を対象とした減災教育の在り方に関する研究や、知的障がいを持つ方と考える減災活動、女性防災プロジェクトなどを行ってきました。現在は、地域の中で避難行動要支援者を支えるための方法を自治体や地域の方々とともに研究しています。

2. 災害時のケアニーズの可視化に関する研究

被災した地域において、全ての住民が適切かつ効果的な支援を受けるためには、どこにどのようなケアニーズがどの程度存在するかを可視化し、その結果に応じて支援者が適切な人数と期間配置されることが必要です。そのための、ケアニーズの可視化について研究を行っています。

◆研究者からのメッセージ

災害による健康被害を受ける方を極力減らすためには、行政や組織の対策のみでなく、平時からのセルフケア（自助・共助）も重要であると考えています。平時と災害時は連続しているため、日常生活の中で災害がイメージできるような取り組みを行っていきたいと考えています。

◆講義・研修可能な内容

- ・慢性疾患を持つ方への減災教育

◆研究キーワード

減災 災害関連死 災害時要配慮者 セルフケア



介護保険施設のケアや看取りに関する研究

◆研究シーズの内容

1. 高齢者施設のケアの質向上を目指した研究

高齢者施設の入所者にとって食べることは心身機能の維持に必要なだけでなく、食への意欲は他の機能や意欲と比べて残存しやすいことから経口摂取支援は重要なケアテーマの一つです。しかし加齢に伴って誤嚥や窒息のリスクは高まることから、最後まで安全に安楽に口から食べていただくための研究をしています。

2. 高齢者施設の看取りに関する研究

生活の場である高齢者施設において、人生の最終段階を安全に安楽に、その人らしく生ききることを支える看取りケアについて研究しています。

◆研究者からのメッセージ

老いても、障害があっても、認知症があっても、最後までその人らしく生ききることをサポートするのが老年看護の役割だと考えています。その方の経験や大切にされていることに思いをはせ、人生の最終段階を安全で豊かに過ごすための看護について考えていきたいと思っています。

◆講義・研修可能な内容

高齢者施設の看護や看取り、認知症高齢者の看護

◆研究キーワード

高齢者看護、特別養護老人ホームの経口摂取支援 高齢者施設での看取り

天木 伸子 (Amaki Nobuko)

准教授 老年看護領域



認知症ケア、高齢者の摂食嚥下障害に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 認知症ケアの質向上に関する研究

病院や高齢者施設で療養する認知症高齢者に対し、認知症の特性を踏まえつつ療養の場にあった認知症ケアを提供するためには、具体的にどのような看護実践を行うと良いか、ケア内容を言語化した認知症ケアの質評価指標を作成して活用をすすめています。認知症ケアに関する臨床での教育では、認知症模擬患者を用いたシミュレーション教育にて認知症ケアの質向上のための教育実践を行っています。

2. 高齢者の摂食嚥下障害に関する研究

加齢の変化によって摂食嚥下機能の低下が進むと、咽頭残留が生じやすくなり誤嚥リスクを高めます。咽頭残留による繰り返される誤嚥は誤嚥性肺炎のリスクを高めることから、咽頭残留を除去するケアプログラムの開発を行っています。また、咽頭残留のスクリーニングには、小型超音波診断装置（エコー）を用いて確認しており、看護師によるエコー活用への社会実装をすすめていけるよう取り組んでいます。

◆研究者からのメッセージ

臨床での看護経験において、認知症高齢者のケアの難しさを感じるとともに、探求された看護が高齢者の安寧につながる看護の力を実感してきました。認知症高齢者が穏やかに療養できるよう、今後もケア実践上にある課題に対して研究を進めていきたいと考えています。また、認知症を含む高齢者は加齢の変化で摂食嚥下機能低下が生じやすくなりますが、できるかぎり長くおいしく「食べる」を実現できるように、摂食嚥下障害のある高齢者への看護に今後も取り組んでいきたいと考えています。

◆講義・研修可能な内容

認知症高齢者へのケア関連、認知症ケアに関するシミュレーション教育、高齢者の摂食嚥下機能低下に対する看護について。

◆研究キーワード

認知症高齢者、シミュレーション教育、認知症模擬患者、摂食嚥下障害、小型超音波診断装置



認知症ケアに関する質評価指標



認知症模擬患者を活用したシミュレーション教育



エコーを用いた咽頭残留の確認

深谷 由美 (Yumi Fukaya)

准教授 在宅看護学領域



通所介護の看護職や多職種・多機関協働に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 通所介護の看護職の質の向上を目指した研究

通所介護とは、介護保険制度において日常生活上の世話や機能訓練を行うこととされていますが、介護者のレスパイトや介護者が仕事と介護を両立するための役割も担っています。地域には医療的ケアが必要な方もいらっしゃいます。医療的ケアが必要であっても住み慣れた地域で自分らしく暮らすために通所介護の看護職に必要なことについて研究を行っています。

2. 多職種・多機関協働に関する研究

疾病を有し、要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らすために、対象者の関わる病院や事業所の協働に関することについて研究を行っています。

◆研究者からのメッセージ

年代に関わらず、対象者とその家族が地域でその人らしく、暮らすためのケアについて、実践する人々とともに取り組んでいきたいと考えます。

◆研究キーワード

通所介護 多職種協働 多機関協働 医療的ケア



妊産婦のメンタルヘルス・院内助産に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 周産期における妊産婦の不安やうつ予防に向けた認知行動療法

メンタルヘルスに不調のある妊産婦は4～5人に1人とされ、周産期メンタルヘルスの重要性は認知されています。特定妊婦やエジンバラ産後うつ病質問票などを用いて、ハイリスク妊産婦のスクリーニングは整備されつつあります。しかし、その後の介入や、不安の強い妊産婦とのコミュニケーションは発展途上です。それらを踏まえて、助産師が実施する認知行動療法（CBT）を活用したプログラムを開発しています。2022年から、助産師が実施する認知行動療法を目指した研修会を企画・実施しています。

2. 院内助産の実装研究

院内助産は、安全性や妊産婦の利用満足度の高さが示され、WHOやICMが推奨しています。また、2022年に出された第8次医療計画においても助産師外来・院内助産の開設が推進されています。院内助産の実装を目指した研究をしています。

◆研究者からのメッセージ

子育てする母親と家族が楽しく安心して過ごせること、また虐待がなくなることを望んでいます。そのために、助産師が妊娠期から継続的に関わるシステムの構築、メンタルヘルスに対して助産師ができる介入の開発と実装を、臨床助産師に方々とともに取り組んでいきたいと考えています。

◆講義・研修可能な内容

メンタルヘルスの問題を抱えた妊産婦との効果的なコミュニケーション
周産期領域における認知行動療法の活用

◆研究キーワード

周産期メンタルヘルス 認知行動療法 助産師 院内助産

妊娠中から知っておきたい ママのための子育て心理学

子育ては心理学でラクになります！

Session1 こころの仕組み

こころが動いたら(動揺したら)
以下のこころのしくみを書いてみましょう

きっかけ
感情が動く要因となった出来事

考え
その出来事に対する考え

こころのしくみ

感情/からだ
きっかけから湧いた感情
身体におきた変化

行動
どんな行動をしたか？

例えば

お悩み
産休に入って昼間ゆっくりしてるせいか、なかなか眠れません。

妊娠してから、仕事を続けてきましたが、ようやく産休に入りました。疲れていないせいか、夜なかなか眠れない日々が続いています。「早く寝ないといけない」と考えると、焦りの感情ができて、逆に目が覚めます。昼間に眠くなってしまい昼間ウトウトしてしまいます。

ワーク:
上の文章を右の枠に分けていれてみましょう

きっかけ

考え

感情/からだ

行動

あるあるお悩み

みんなはどうしてる？

考えを変える/
発想を変えて乗り切る

行動を変える/
うまくお願いする

未来の自分へのアドバイス
(友人に同じ悩みがあったら、どのようにアドバイスをしますか?)

変えてみるとどうなりそう？



子どもの慢性疾患・プレパレーションに関する研究

◆研究シーズの内容

1. 子どもの力を引き出すプレパレーションに関する研究

小児看護では、子どもの発達段階に応じた説明や環境を整えることで子ども自身がもっている力（対処能力）を引き出すような関わり「プレパレーション」が重要とされています。これまでの研究で、多くの看護師がプレパレーションの必要性を認識しているにもかかわらず、実践が難しい現状が明らかになりました。プレパレーションが日常の看護として定着することを目指し、現在は手術を受ける子どもへの術前看護について、病院との共同研究を行っています。

2. 慢性疾患の子どもの療養生活に関する研究

医療の進歩に伴い、慢性疾患をもつ子どもが地域で生活できるようになりました。その一方で、セルフケアや成長発達上の問題など様々な困難も生じています。そのため、慢性疾患をもちながら地域で生活する子どもに焦点をあてた研究に取り組んでいます。

◆研究者からのメッセージ

子どもはたくさんの“力”をもっています。子どもがもっている力を信じ、その力を最大限発揮できるような看護について、子どもに関わる専門職やご家族の方々と一緒に考えていきたいと思っています。

◆講義・研修可能な内容

子どもの成長発達、慢性疾患をもつ子どもの看護、プレパレーションに関する内容

◆研究キーワード

小児 プレパレーション 慢性疾患



原田 真澄 (Harada Masumi)

准教授 精神看護領域



精神障がいをもつ人とその家族の支援に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 地域で暮らす中高年の精神障がいをもつ人とその家族への支援に関する研究

精神障がいをもつ人は、環境の変化に対する脆弱性を有しています。高齢の親の健康状態の悪化や親の死などに直面した場合、それらの変化に適応することは、精神障がいをもつ人や家族にとって容易なことではなく、家族の危機状態であると考えられます。

これまで、精神障がいをもつ患者に限らず、成人期から老年期の患者の家族の危機に対する看護職の捉え方を明らかにしてきました。それらを踏まえて、中高年の精神障がいをもつ人と高齢の親からなる家族に対する支援として、支援者があらかじめ準備しておく役割リストの開発に取り組んでいます。

◆研究者からのメッセージ

精神障がいをもつ人とその家族が、地域で安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、家族の危機状態に対する支援方法の開発に取り組んでいきたいと考えています。

◆講義・研修可能な内容

- ・成人期から老年期の患者の家族の危機に対する看護職の捉え方
- ・地域で暮らす中高年の精神障がいをもつ人の家族の関係性の特徴

◆研究キーワード

精神障がい者 家族の危機 準備

清水 美代子 (Shimizu Miyoko)

准教授 公衆衛生看護領域



仕事と介護の両立支援に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 仕事と介護の両立支援に関する研究

わが国では、団塊の世代の高齢化による要介護認定者のさらなる増加が予測されるなか、その子ども世代の仕事と介護の両立の問題が浮上しています。介護離職者は、1年間に10万人を超え、仕事を続けながらの介護の両立には困難を伴うことが予想されます。特に介護に直面しているのは、40～50歳代のいわば働きざかり世代で、管理職等の職責の重い仕事に従事する者も少なくありません。これらの者が退職することは、企業や医療機関等において大きな損失であり、介護離職を防止することは喫緊の課題になっています。厚生労働省も介護離職防止支援プランを提示していますが、介護離職者は減少に至ってはおりません。介護が開始してからの支援の充実は勿論必要ですが、これまでの研究から介護に直面する前段階からの支援が重要であると考えています。具体的には、仕事と介護の両立に理解を示す職場環境の醸成、介護者自身の健康管理、介護に必要な情報の提供、被介護者が望むケアや治療の把握があげられます。

◆研究者からのメッセージ

労働力人口が減少しているわが国において、介護離職者をなくすことは、経済活動を低迷させないためにも重要ですが、それ以上に就労を継続したいと願う介護者のQOLの向上にも寄与できるものと考えています。

◆講義・研修可能な内容

介護保険制度の仕組みやサービスの種類・利用方法、地域にある相談窓口の情報提供、被介護者や家族とのコミュニケーション(望む治療やケアの把握、主治医との連携、協力体制)、健康管理。

◆研究キーワード

就労介護者 仕事と介護の両立 支援

就労介護者の仕事と介護の役割遂行における葛藤のアセスメント指標

項目	
第1因子：精神的・身体的圧迫	
身体	1 仕事と介護で疲労がたまった
時間	2 仕事、介護、家事のやりくりで追われる
時間	3 仕事と介護で自分のために使える時間がない
身体	4 仕事と介護で健康状態が悪化した
仕●介	5 仕事で疲れているので、介護をする元気がない
身体	6 介護で夜間の睡眠時間が減少した
仕●介	7 勤務時間が長いので、介護が負担である
介●仕	8 介護時間が長いので、仕事に負担である
介●仕	9 介護で仕事を減らすか働き方に悩む
介●仕	10 介護があると介護前の生活スタイルを続けられないと思う
時間	11 介護で仕事の時間が減ってイライラする
介●仕	12 介護のために孤立を感じることがある
介●仕	13 介護で同僚に負担がかかり、申し訳なく思う
第2因子：職場の理解	
	14 介護に対する職場の理解がある(逆転項目)
	15 介護のための連続休暇が取得できる(逆転項目)
第3因子：被介護者の認知症	
	16 介護が必要な方に妄想、暴言がある
	17 介護が必要な方に徘徊がある
	18 介護が必要な方との意思疎通が困難である
	19 介護が必要な方に昼夜逆転がある
第4因子：家族のサポート	
	20 日常的に介護を任せられる人がいる(逆転項目)
	21 身近な人が介護を必要とする方の異変に気づくことができる(逆転項目)
第5因子：被介護者の病状	
	22 介護が必要な方の介護量が増えた
	23 介護が必要な方が急変した
	24 介護が必要な方の食事や入浴などの生活行動が徐々に低下した
第6因子：介護者の価値観	
	25 介護で自分を追い詰めないようにする(逆転項目)
第7因子：制度・サービス	
	26 介護用品や施設の情報が見られない
	27 介護のことを相談できる人がいない

注)「身体」は身体的圧迫、「時間」は時間葛藤
「仕●介」は仕事が介護を干渉する、「介●仕」は介護が仕事を干渉する、を示す

竹内 貴子 (Takeuchi Takako)

講師 基礎看護学領域

学生への看護過程の教育に関する研究

◆研究シーズの内容

看護過程の展開は、初学者にとっては難しい学習内容です。

看護の対象の理解できるように、また看護診断が理解できるように、効果的な教育を目指しています。

◆研究者からのメッセージ

臨床では当たり前のように実践されている思考過程ですが、思考過程を言葉で伝えられるようにしたいと思います。

◆講義・研修可能な内容

学生に向けて行っている教育を紹介することが可能です。

◆研究キーワード

看護過程 基礎看護学

看護記録に必要な
観察・情報収集の進め方

観察力は アセスメント力

「観察・情報収集」「アセスメント」の
苦手克服の方法

日本赤十字豊田看護大学 准教授

講師 竹内貴子

講師 杉浦美佐子

当大学において開設した1010年度の基礎看護学実習に対する学生の到達度自己評価のうち、残念ながら「達成できなかった」や「半達成できなかった」が比較的高割合であった項目は、アセスメントに関する「情報の収集と分析」であった(図1)。この結果から、受け持ち患者(以後、患者)に対して初めて看護過程を展開する学生にとっては、情報収集とアセスメントに困難を感じやすいことは明らかである。

この困難を学生にもたらす第一の要因は、学生の知識の少なさと知識を関連付けて習得する経験の少なさであろう。基礎看護学実習は、学内での演習とシミュレーション的演習の後、初めて自身で情報収集を開始して看護過程を構築しなければならぬ。極めて厚くしの中で、同時に患者との関係も構築しながら必要な情報を得る。抱れない慣れた力加減とも異なる。これらの困難は、学生に多くの困難を生じさせる。しかし、経験の少なさとその他の要因も、やりがによってもカバー可能である。

そこで本講では、経験の少ない学生・スタッフにどのような方法を用いて苦手を克服を試みるべきか、学生の取り組みを中心に報告する。

情報収集の段階で、何を苦手と感じるのか(表1)

基礎看護学実習は、学年によって情報収集の量に大きな差がある。多くの情報収集からその量み付けの判断と、必要な情報の絞り込みができず、また、その情報に基いて適切なことができない。

平成30年度 公開講座(看護師対象)

もう一度学びたい「看護過程」シリーズ

1回目 ゴードンの機能的健康パターンを用いたアセスメント
2回目 NANDA-I 看護診断
シリーズで行う予定ですが、どちらかだけでも参加可能です。
一緒に学んでみませんか?

日時: ① 9月29日(土) 10:00~12:00
② 10月 6日(土) 10:00~12:00

場所: 日本赤十字豊田看護大学 セミナール室

募集人員: 20名程度

参加費: 1,800円

申込方法: ホームページ (<http://www.rctoyota.ac.jp/>)
専門職向け研修会の申込みページから行えます

申込締切: ① 9月 7日 (金)
② 9月14日 (金)



お問い合わせ

<http://www.rctoyota.ac.jp/>

担当: 企画地域交流課 奥 映理菜

受付時間/9:00~17:30(土・日・夜日除く)

〒471-8565

愛知県豊田市白山町七曲12番33

TEL.0565-36-5111

スマホはこちら



学校法人 日本赤十字豊田看護大学
Japanese Red Cross Toyota College of Nursing



急性期病棟での高齢者看護に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 高齢者に対する看護実践のリフレクションを促すツールの開発

急性期病棟での看護は、治療や疾病の回復、入院している高齢者の安全を守ることが第一でありとても多忙な環境です。そのため、日常的に行っている看護についてゆっくり振り返る時間や余裕がありません。そこで、高齢者に実施した看護を振り返ることができるリフレクションシートを開発しました。実施した看護の意味や、高齢者にとっての効果に気づけ、よりよい看護につなげることができると考えています。

2. 高齢者と看護師の相互作用、応答に着目した研究

看護師の態度や姿勢、言葉遣い、応答の仕方が、高齢者にも影響するという経験は、看護師ならば誰でも経験したことがあると思います。しかし、それは科学的に証明されているわけではなく、看護師個人が暗黙的に理解している知識にすぎません。この応答について解明し、高齢者ケアのアウトカムの向上につなげる研究に取り組んでいます。

◆研究者からのメッセージ

急性期の高齢者看護は、複数の慢性疾患を抱え、日常生活機能が低下し脆弱な高齢者にとっての課題となる認知症、せん妄、転倒転落、身体抑制、退院支援、意思決定支援に注目が集まっています。それらの課題への解決や質の高い看護実践の探究は重要だと考えます。一方で、看護実践とは、看護を受ける患者さんと看護を提供する看護師の関わりがその本質です。看護実践の中心となる関わりを追求に取り組んでいます。

◆講義・研修可能な内容

- ・ ケーススタディなど実際の看護について振り返り、対象者の理解を深めたり、看護実践の意味を追求する検討会
- ・ 質的研究の方法についての研修

◆研究キーワード

急性期病棟での高齢者看護、リフレクション、相互作用

大西 幸恵 (Onishi Yukie)

講師 基礎看護学領域



プロフェッショナルリズム教育に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 看護大学生のプロフェッショナルリズム育成を目指した教育プログラムに関する研究

優れた看護専門職の養成は看護系大学の使命とされています。プロフェッショナルリズムは将来看護専門職を目指す看護系大学生に求められる基本的な資質・能力の一つです。プロフェッショナルリズムにはさまざまな意味があり、明確な定義はありませんが、ここでは、看護専門職としての物の見方や考え方、持っている専門的な知識を活かし、看護専門職として態度や姿勢、実際の行動に移して表出することであると考えます。これらを踏まえ、看護学士課程におけるプロフェッショナルリズム教育の問題や教育者と学習者のニーズを検討し、プロフェッショナルリズム育成のためのプログラム案の開発に取り組んでいます。

◆研究者からのメッセージ

看護大学生のプロフェッショナルリズムを育むために、臨床現場や教育現場の方々と教育内容や方法を検討し、協力していきたいと考えています。

◆講義・研修可能な内容

プロフェッショナルリズムについて、プロフェッショナルリズム教育に関する研究の動向について

◆研究キーワード

看護大学生 プロフェッショナルリズム教育



喉頭摘出術を受けた患者のQOL向上に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 喉頭摘出術を受けた患者の退院後の生活に関する研究

喉頭がんや下咽頭がん患者に行われる喉頭全摘術は、失声や永久気管孔造設に伴う日常生活の変容が大きく、退院後の生活への適応困難に陥りやすい術式です。そこで、喉頭摘出術によって生じる機能障害を術式から導き出し、その問題の推移、対処法について研究で明らかにしました。

2. 喉頭摘出者の食道発声の獲得を目指した研究

食道発声は、喉頭がんや下咽頭がんで喉頭全摘術を受けた方が獲得を目指す代用発声法の1つです。長年、喉頭摘出者の患者会で行われてきた食道発声の訓練を観察研究によって整理して体系化し、応用行動分析学に基づく実験研究でその効果を検証する研究を行いました。また、食道発声で音が生じえるようになるプロセスやそのメカニズムを超音波診断装置で可視化しました。

現在は、食道発声の自己練習用アプリの開発と喉頭摘出者の嚥下に関する研究に取り組んでいます。

◆研究者からのメッセージ

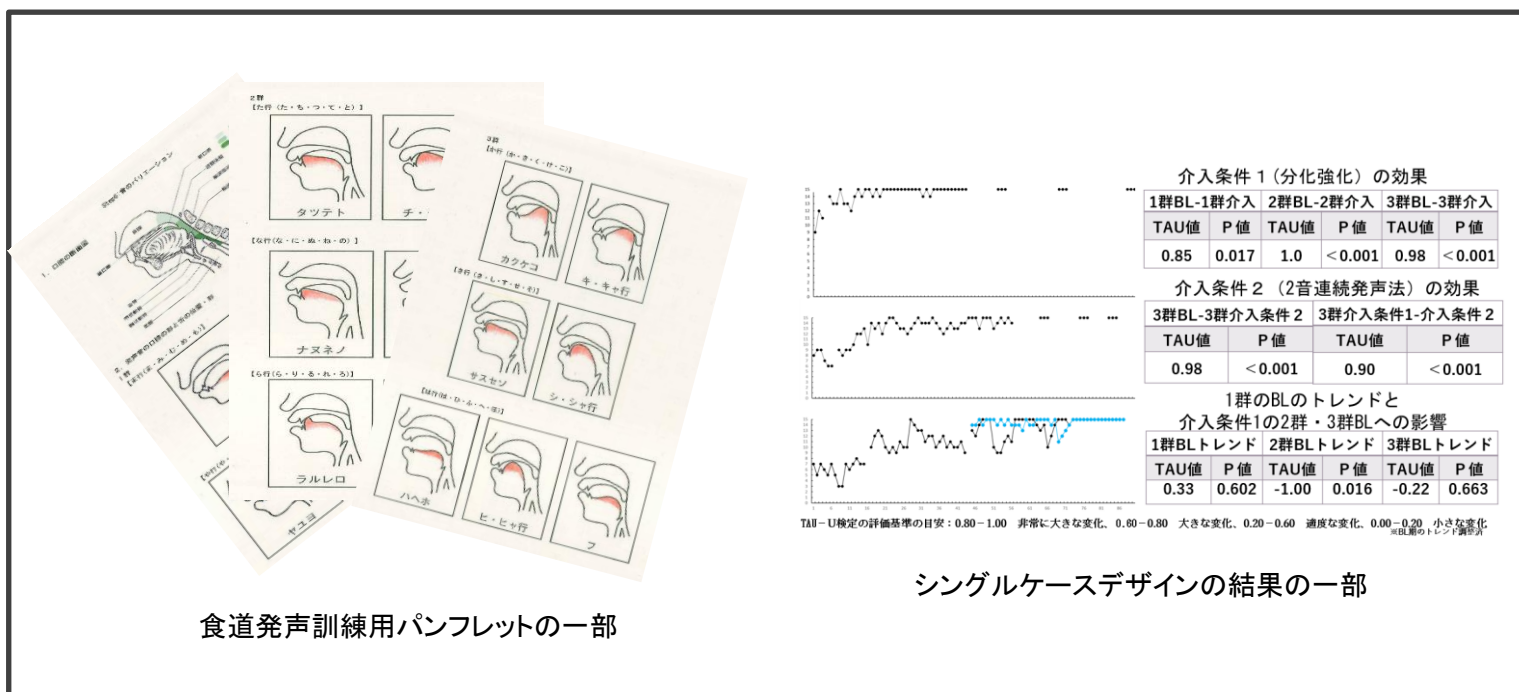
今後も喉頭摘出術を受けた方のQOLを維持できるような研究に取り組んでいきたいと考えています。また、応用行動分析学のシングルケースデザインは、看護技術の習得、臨床での患者・看護師教育に適していること、超音波診断装置は、患者の非侵襲的に体内を可視化でき、的確な看護実践に繋がることについて広めていきたいと考えています。

◆講義・研修可能な内容

食道発声の指導、食道発声の指導者向けの教育、シングルケースデザインの臨床での活用

◆研究キーワード

喉頭摘出者 食道発声 応用行動分析 シングルケースデザイン 超音波診断装置





災害看護・災害医療に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 業務継続計画（BCP・BCM）を意識した静穏期における活動に関する研究

災害拠点病院に加え、介護・訪問看護施設へのBCP策定が義務づけられ、病院はじめ施設での災害対策が強化されてきています。また、令和6年4月からは災害支援ナースの位置づけも変わり、ますます災害看護に対する期待が高まっていると感じています。このような中、BCP・BCMやマニュアル改訂を進める活動・研究に取り組んでいます。

2. 社会心理支援に関する研究

日本赤十字社では、インド地震災害以降、基礎保健型緊急対応ユニット（ERU）を派遣し、国際的な災害救援に対応してきました。ERUでの心理社会支援の変遷について、今までの経緯を踏まえた研究に取り組んでいます。

3. 「自助」「共助」向上するための防災・減災教育に関する研究

発災時、災害超急性期には外部からの支援は望めず、自分たちで自身の命を守り、支援の手が入るまでをつなぐ必要があります。これらを踏まえて、地域を巻き込んだ防災・減災教育の必要性を踏まえた研究に取り組んでいます。

◆研究者からのメッセージ

近年、頻発する災害に対して、発災・急性期から復興・準備期にいたる様々なサイクルの中で、看護職の役割を考え、実践することに取り組んでいきたいと考えています。

また、日本赤十字看護大学附属災害救護研究所の心理社会支援部門に所属し、サイコロジカルファーストエイド（PFA）の普及にも努めていきたいと考えています。

◆講義・研修可能な内容

BCP・BCMに関すること、マニュアルや防災教育に関すること、災害時の心理社会支援に関することなど。

◆研究キーワード

災害看護、心理社会支援（MHPSS）、BCP・BCM、地域防災、防災・減災教育



近隣地域での防災教育の一場面

在宅移行 訪問看護 AYA世代がん

◆研究シーズの内容

1. がんに罹患した患者様への在宅移行支援に関する研究

2人にひとりがんと診断される時代。住み慣れた地域でがん患者様のニーズを捉えた適切な看護・支援が求められています。入院時から、患者様とご家族の個性を捉えた退院支援の課題や退院も心身が安定できる暮らしの中の看護・支援について継続的に研究をしていきたいです。

2. 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の患者様を支える病棟看護師と訪問看護師の連携に関する研究

長期間在宅療養生活を継続するためには、訪問・通所サービス、定期的な検査・治療などを目的とした入院やレスパイトケアを組み合わせた支援は重要です。定期的に病状の進行を緩和するため、入院治療を繰り返す、ALSの療養者様を支える訪問看護師と病棟看護師の双方の看護の視点と連携の課題について継続的に研究していきたいです。

3. AYA世代がん 地域支援

AYA世代がんはライフステージが大きく変化する年代です。患者さん一人ひとりのニーズに合わせた地域・社会の中での支援が必要です。地域・社会の中でAYA世代に対する理解と求められる支援を考えていきたいです。

◆研究者からのメッセージ

患者さん（療養者さん）の「自宅で暮らし続けたい」、「住み慣れた地域に帰り、生活したい」気持ちを支える看護・支援を一緒に考えていただきたいと思います。

◆講義・研修可能な内容

退院支援

AYA世代がん支援

◆研究キーワード

在宅移行 連携 訪問看護 AYA世代がん ALS



エンドオブライフ・ケアの実際
死産を経験した母親のグリーフケア

千葉 朝子 (Chiba Asako)

講師 母性看護領域



母乳育児をする母親・女性の心地よさに関する研究

◆研究シーズの内容

1. 母乳育児をする母親の心地よさの向上を目指す研究

1日に何度も行う授乳が心地よいものになれば育児の楽しさにもつながると思います。出産施設退院後、セルフケアで授乳を行う母親が母乳育児に心地よさを感じながら授乳できているかの把握ができれば、より適切なケアの提供が可能になると考え、「母親が母乳育児に感じる心地よさ尺度」を開発しました。尺度を使用し、心地よさが感じられない因子などを特定し、母親がより心地よく母乳育児が継続していけるような研究をしています。

2. アロマハンドマッサージによるリラクゼーションケアに関する研究

不妊治療中の女性を対象に行ったアロマハンドマッサージの研究結果から、リラクゼーション効果を実証しました。今後は女性のライフステージの枠を広げ、女性の不調に対する効果についても検証し、女性のウエル・ビーイングの向上につながるようなケアを提供していきたいと考えています。

◆研究者からのメッセージ

心地よいと感じることはリラクゼーションにつながり、ストレスの軽減にもつながります。心地よさにつながるようなケアに取り組んでいきたいと考えています。女性のライフサイクルのウエル・ビーイングの向上に貢献できるような研究を目指しています。

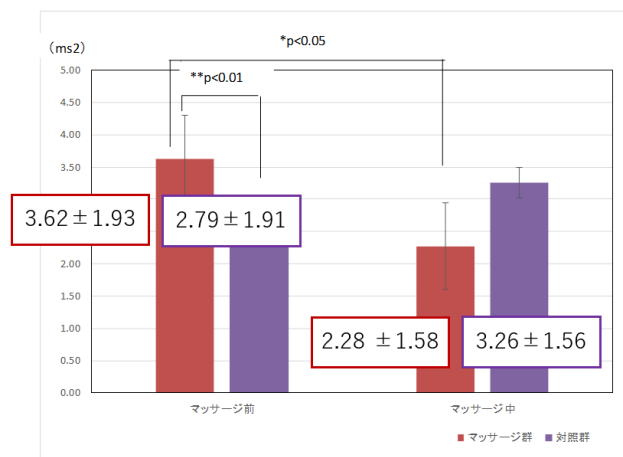
◆講義・研修可能な内容

アロマセラピーについての知識やアロマハンドマッサージの方法などについての講義を行います。

◆研究キーワード

母乳育児 心地よさ 女性 アロマハンドマッサージ

アロマハンドマッサージにおけるリラクゼーション効果 マッサージ群、対照群におけるLF/HFの比較



遠藤 幸子 (Endo Sachiko)

講師 小児看護領域



地域における小児看護・保育保健における多職種連携

◆研究シーズの内容

1. 地域における小児看護

慢性疾患や障害をもち、治療や療養しながら成長発達していく子どもや家族に必要な看護について追究しています。

2. 保育保健における多職種連携

保育所では低年齢児の入所が増加する中、アレルギー疾患や医療的ケアを要する子どもの保育ニーズも急増しています。そこで、看護師は医療専門職として保育士や園医、教員、栄養士等、多職種とともに協働することが必要不可欠と考えます。看護師の専門的役割、多職種連携の在り方を継続して研究しています。現在、東海保育保健研究会では保育所看護職や園長、保育士、小児看護学教員、保育士養成校教員等とともに、保育保健に関する学習会や研修会を企画し、相互に情報交換や研鑽の機会を設けています。

◆研究者からのメッセージ

成長発達途上にある子どもが健やかに育つこと、病気をもつ子どもと家族が地域で安心して生活できるように、様々な専門家とともに取り組んでいきたいと考えています。

◆研究キーワード

保育所看護職 保育保健活動 食物アレルギー



神谷 美帆 (Kamiya Miho)

講師 小児看護領域



子どもの力を支える看護に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 短期入院で計画手術を受ける子どもの力を支える看護に関する研究

医療の進歩により、子どもであっても手術療法などを受けることで、その後の長い人生をより良い健康状態で過ごすことができるようになっていきます。加えて、入院期間も短縮化され、手術部位の完治の前に自宅に戻るようになっていきます。

入院中、子どもや家族は、短期間のうちに、入院する病棟や手術室などといった複数の新しい場所で、新しい体験をしています。特に、繰り返し入院を必要としない疾患での手術を受ける子どもが「入院と手術を頑張った」体験にするための援助が子どもの達成感を促進するために必要であると考え、研究を行っています。

◆研究者からのメッセージ

子どもの入院する施設がどのような場であっても、子どもの「僕／わたし、頑張ったよ。」を支える看護のポイントが言語化され、子ども、家族、そしてケアをする看護師も「できた!」といった達成感を得られる実践を検討して行きたいと考えています。

◆研究キーワード

小児看護 短期入院 計画手術 小児病棟 混合病棟



職場のソーシャル・キャピタルに関する研究

◆研究シーズの内容

1. 職場のソーシャル・キャピタルを活用した研究

ソーシャル・キャピタルは人々の絆ともいわれ、この無形資源を活用した健康づくりが注目されています。これまでに、働く人を対象とし、ソーシャル・キャピタルと労働生産性、ソーシャル・キャピタルとワーク・エンゲイジメント、ソーシャル・キャピタル労働災などの関係性を明らかにしてきました。これらを踏まえて、2023年度から事業所の健康づくりにおける職場のソーシャル・キャピタルの活用に関する研究に取り組んでいます。

2. 産業看護に関する研究

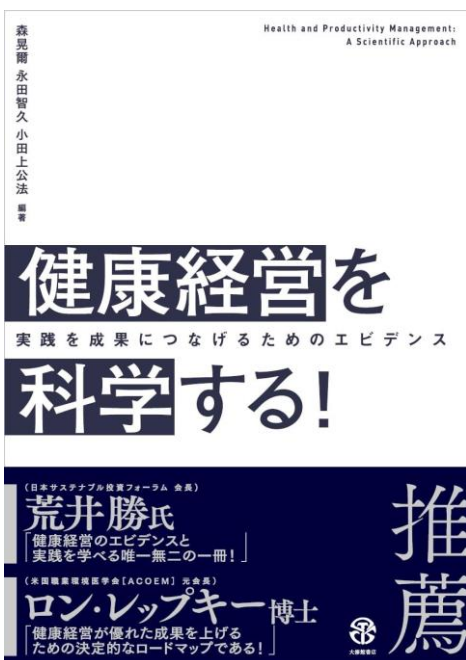
産業看護職は、働く人のみならず、その人々が高齢者になってもいきいきと生活し、経済活動に参加し続けられるよう、働き世代からの健康づくりを支援しています。現在は、産業看護職の能力の評価の実態、産業看護系における実習に関する研究を行っています。

◆研究者からのメッセージ

働く人がいきいきと働ける職場環境づくりの開発や産業看護職に関する研究について、働く人々や事業者、実践者の皆さんと一緒に取り組むことで、いきいきと働けるお手伝いができると思います。

◆研究キーワード

ソーシャル・キャピタル、働く人、労働生産性、産業看護



看護の場におけるユーモアの意味と活用の研究

◆研究シーズの内容

1. ユーモアのもつ意味とその活用

臨床、看護の場において、ユーモアは人間をくつろがせ、心を解放します。また、互いに他をいたわり合い、心が通い合うようにさせます。そして第三者的な高い視点に立たせることによって、おかれた状況の苦しさ、さらには死の恐怖をも乗り越えさせる力があります。このような自己超越能力は、人間に秘められた素晴らしい能力です。したがって、看護師をはじめとして医療従事者がユーモア感覚を磨き、看護や臨床の場において意図的にユーモアを使っていくことは、患者やその家族が病気の苦しみやその恐怖を乗り越えていくために意味のあるものだと考えています。

◆研究者からのメッセージ

看護の場においてユーモアが重要であることはよく知られているところですが、実際にユーモア感覚をどのように磨いていったらよいのでしょうか。今、考えられることは、まずは関心をもって、臨床や看護の場においてユーモアがあった場面を覚えておくこと、そして、自分もそのユーモアを実際に試してみるのだと考えています。

◆研究キーワード

ユーモア、プラス思考、思いやり、自己超越、病苦・死の恐怖の克服



せん妄発症予防に関する研究

◆研究シーズの内容

1. せん妄発症を予防するためのケアの特徴に関する研究

少子高齢化がすすむ一方で、近年の医療技術は目覚ましい進歩を遂げており、年齢を問わず積極的な手術や侵襲的な集中治療管理が行われています。このような背景から、急性期病棟や集中治療下におかれている対象者のせん妄の発症率は、今後ますます増加することが懸念されています。せん妄の発症は認知機能の低下や死亡率の増加につながるだけでなく、対応の難しさから看護職のケアの困難感にもつながっています。それらを踏まえて、せん妄発症の予防につながるケアの特徴を明らかにし、対象者のQOLの向上や看護職の負担の軽減に資するための研究を行っています。

◆研究者からのメッセージ

人生100年時代となり、地域で健康にそしてその人らしく生活する時間が延伸しています。その中で、生命予後を悪化させるせん妄に対して、発症を予防するためのケアを明らかにするための研究に取り組んでいきたいと考えています。

◆研究キーワード

せん妄 せん妄発症予防



高齢者の口腔ケア・感染予防に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 高齢者の口腔ケアに関する研究

わが国では高齢者が増加しており、高齢者の療養の場は在宅に移行しています。地域包括ケアシステムが推進されることで、在宅で過ごす高齢者が増加し、在宅や通所事業所における看護師の需要は高まると考えられます。口腔に関する施策が立てられていますが、通所事業所や訪問看護では歯や口腔に関する取り組みは十分とは言えない状況です。そのため、通所事業所を利用する要支援高齢者の口腔に関する調査や在宅で生活する要介護高齢者に実施している口腔ケアの実態の調査を行っています。

2. 感染予防に関する研究

ガウンや手袋の着脱動画のモデルや疥癬や結核の動画の音声吹き込みなど介護士や看護師の方々に分かりやすい動画を作成し、感染予防に役立つような活動を行っています。

◆研究者からのメッセージ

今後ますます需要が高まると考えられる口腔ケアについての研究に、取り組んでいきたいと考えております。また、動画作成なども一緒に行っていきたいと思っておりますので、お声がけください。

◆研究キーワード

高齢者 口腔ケア 感染予防 動画作成

近藤 香苗 (Kondo Kanae)

助教 老年看護学領域



高齢者の呼吸機能に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 高齢者の呼吸機能維持を目指すことに関連する定量的研究

健康寿命の延伸と高齢者がその人らしく、いきいきとした生活を送るためには、呼吸機能の維持が重要です。また、慢性呼吸器疾患は高齢者に発症しやすく、息切れなどによる身体活動性の低下が生命予後に影響を与えます。これまでの研究では、看護師が行うCOPD患者教育について実態調査などを行いました。現在は、呼吸機能低下の早期発見と介入に関する示唆を得るための研究を進めています。

2. 老年看護学教育に関する研究

高齢者の機能維持や自立を目指す援助においては、廃用予防や過度な心身への負担を考慮した適切な臨床判断が重要です。COVID-19の蔓延により臨地実習が困難となった際に、高齢者の活動耐性低下の状態を適切に判断し、活動と休息の援助を考えることができることを目的とした学内実習プログラムを作成し、実践しました。

◆研究者からのメッセージ

COVID-19の蔓延により、高齢者の呼吸機能についての関心が高まっています。特に高齢者はCOVID-19による重症化リスクが高いとされており、呼吸機能の低下が深刻な影響を及ぼす可能性があります。呼吸器疾患の予防や管理、さらに高齢者の健康の維持・増進に貢献できるよう、今後も研究を進めていきたいと考えています。

◆講義・研修可能な内容

慢性閉塞性肺疾患を持つ高齢者の看護

◆研究キーワード

慢性閉塞性肺疾患 高齢者の呼吸機能

表1. 臨床判断力の獲得を意図した学習プログラム

臨床判断力の獲得を意図した学習プログラム		
ねらい: a) COPDと慢性心不全のある高齢者の病態を「解釈」し、b) 現在の病状や活動耐性低下の状態を「解釈」し、c) 適切な1日の活動や休息の取り方の計画を立案「反応」できるようにすること、また計画を実施したと想定したその後の高齢者の状態観察をした結果から、d) 計画の評価とともに自己の臨床判断について「省察」する。		
目的: その場ごとに学生がバイタルサインの呼吸音や脈量の観察や変化に気づき、それが呼吸不全、心不全の徴候であることや、その原因として1日の活動量や休息量、高齢者の身体機能に伴う活動耐性低下によるものであると判断ができる。		
目標	学習課題	方法
1日目	①COPDと心不全の病態が理解できる ・加齢に伴う心・血管系、呼吸器系の構造と機能の変化 ②COPDによる労作性息切れの機序と呼吸器系増加による影響について説明できる ・COPDの病態（気腫化と気管支炎） ・低酸素血症の機序、併存症や呼吸への影響、COPDによる肺高血圧 ・低酸素血症から生じるバイタルサインの変化や症状 ③心不全の病態から活動耐性やバイタルサインなどのように変化することを確認できる ・心不全（拡張不全、収縮不全）の病態、動脈硬化による血圧の変化 ・心不全、右心不全の症状とその機序 ・各臓器による心臓機能低下をきたす状態を理解する ・疾患・加齢による活動耐性低下と身体機能低下 ・COPDの併存症、フレイルサイクルの悪循環 ・身体活動を維持する意義 ④COPD、心不全の病態に必要な看護	①学内実習のオリエンテーション ・学内実習について説明を受ける ・事例を提示し、学習目標、学習課題について説明 ・1グループ4名5グループに分かれ、各グループの担当教員を決定し学生の意見、反応にすぐに反応、指導できる体制 ②学内実習の管理過程の展開 ・アセスメントと関連図作成
2日目	④アセスメント結果を統合し身体機能を考えることができる ⑤高齢者の活動と休息のバランスが保たれる日の過ごし方を計画立案できる ⑥1日の活動と休息における援助を考える ⑦症状の悪化の徴候を判断するための観察について説明できる	①学習目標、学習課題について説明を受ける ②事例観察の管理過程の展開 ・関連図の完成と看護計画立案 ③臨地実習で1日受け持つことを想定し、②で立案した計画を実施した援助計画を立案 ・観察計画は、どのようなことを観察するのか、観察計画を立案 ・観察人として、グループワークに参加 ④活動耐性低下による生活への影響と必要な援助について、グループごとに発表し全体討議
3日目	⑧適切な観察と測定方法を観察、観察を行う ⑨観察で得た情報を解釈して状態を判断できる ⑩心不全の1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、32日、33日、34日、35日、36日、37日、38日、39日、40日、41日、42日、43日、44日、45日、46日、47日、48日、49日、50日、51日、52日、53日、54日、55日、56日、57日、58日、59日、60日、61日、62日、63日、64日、65日、66日、67日、68日、69日、70日、71日、72日、73日、74日、75日、76日、77日、78日、79日、80日、81日、82日、83日、84日、85日、86日、87日、88日、89日、90日、91日、92日、93日、94日、95日、96日、97日、98日、99日、100日、101日、102日、103日、104日、105日、106日、107日、108日、109日、110日、111日、112日、113日、114日、115日、116日、117日、118日、119日、120日、121日、122日、123日、124日、125日、126日、127日、128日、129日、130日、131日、132日、133日、134日、135日、136日、137日、138日、139日、140日、141日、142日、143日、144日、145日、146日、147日、148日、149日、150日、151日、152日、153日、154日、155日、156日、157日、158日、159日、160日、161日、162日、163日、164日、165日、166日、167日、168日、169日、170日、171日、172日、173日、174日、175日、176日、177日、178日、179日、180日、181日、182日、183日、184日、185日、186日、187日、188日、189日、190日、191日、192日、193日、194日、195日、196日、197日、198日、199日、200日、201日、202日、203日、204日、205日、206日、207日、208日、209日、210日、211日、212日、213日、214日、215日、216日、217日、218日、219日、220日、221日、222日、223日、224日、225日、226日、227日、228日、229日、230日、231日、232日、233日、234日、235日、236日、237日、238日、239日、240日、241日、242日、243日、244日、245日、246日、247日、248日、249日、250日、251日、252日、253日、254日、255日、256日、257日、258日、259日、260日、261日、262日、263日、264日、265日、266日、267日、268日、269日、270日、271日、272日、273日、274日、275日、276日、277日、278日、279日、280日、281日、282日、283日、284日、285日、286日、287日、288日、289日、290日、291日、292日、293日、294日、295日、296日、297日、298日、299日、300日、301日、302日、303日、304日、305日、306日、307日、308日、309日、310日、311日、312日、313日、314日、315日、316日、317日、318日、319日、320日、321日、322日、323日、324日、325日、326日、327日、328日、329日、330日、331日、332日、333日、334日、335日、336日、337日、338日、339日、340日、341日、342日、343日、344日、345日、346日、347日、348日、349日、350日、351日、352日、353日、354日、355日、356日、357日、358日、359日、360日、361日、362日、363日、364日、365日、366日、367日、368日、369日、370日、371日、372日、373日、374日、375日、376日、377日、378日、379日、380日、381日、382日、383日、384日、385日、386日、387日、388日、389日、390日、391日、392日、393日、394日、395日、396日、397日、398日、399日、400日、401日、402日、403日、404日、405日、406日、407日、408日、409日、410日、411日、412日、413日、414日、415日、416日、417日、418日、419日、420日、421日、422日、423日、424日、425日、426日、427日、428日、429日、430日、431日、432日、433日、434日、435日、436日、437日、438日、439日、440日、441日、442日、443日、444日、445日、446日、447日、448日、449日、450日、451日、452日、453日、454日、455日、456日、457日、458日、459日、460日、461日、462日、463日、464日、465日、466日、467日、468日、469日、470日、471日、472日、473日、474日、475日、476日、477日、478日、479日、480日、481日、482日、483日、484日、485日、486日、487日、488日、489日、490日、491日、492日、493日、494日、495日、496日、497日、498日、499日、500日、501日、502日、503日、504日、505日、506日、507日、508日、509日、510日、511日、512日、513日、514日、515日、516日、517日、518日、519日、520日、521日、522日、523日、524日、525日、526日、527日、528日、529日、530日、531日、532日、533日、534日、535日、536日、537日、538日、539日、540日、541日、542日、543日、544日、545日、546日、547日、548日、549日、550日、551日、552日、553日、554日、555日、556日、557日、558日、559日、560日、561日、562日、563日、564日、565日、566日、567日、568日、569日、570日、571日、572日、573日、574日、575日、576日、577日、578日、579日、580日、581日、582日、583日、584日、585日、586日、587日、588日、589日、590日、591日、592日、593日、594日、595日、596日、597日、598日、599日、600日、601日、602日、603日、604日、605日、606日、607日、608日、609日、610日、611日、612日、613日、614日、615日、616日、617日、618日、619日、620日、621日、622日、623日、624日、625日、626日、627日、628日、629日、630日、631日、632日、633日、634日、635日、636日、637日、638日、639日、640日、641日、642日、643日、644日、645日、646日、647日、648日、649日、650日、651日、652日、653日、654日、655日、656日、657日、658日、659日、660日、661日、662日、663日、664日、665日、666日、667日、668日、669日、670日、671日、672日、673日、674日、675日、676日、677日、678日、679日、680日、681日、682日、683日、684日、685日、686日、687日、688日、689日、690日、691日、692日、693日、694日、695日、696日、697日、698日、699日、700日、701日、702日、703日、704日、705日、706日、707日、708日、709日、710日、711日、712日、713日、714日、715日、716日、717日、718日、719日、720日、721日、722日、723日、724日、725日、726日、727日、728日、729日、730日、731日、732日、733日、734日、735日、736日、737日、738日、739日、740日、741日、742日、743日、744日、745日、746日、747日、748日、749日、750日、751日、752日、753日、754日、755日、756日、757日、758日、759日、760日、761日、762日、763日、764日、765日、766日、767日、768日、769日、770日、771日、772日、773日、774日、775日、776日、777日、778日、779日、780日、781日、782日、783日、784日、785日、786日、787日、788日、789日、790日、791日、792日、793日、794日、795日、796日、797日、798日、799日、800日、801日、802日、803日、804日、805日、806日、807日、808日、809日、810日、811日、812日、813日、814日、815日、816日、817日、818日、819日、820日、821日、822日、823日、824日、825日、826日、827日、828日、829日、830日、831日、832日、833日、834日、835日、836日、837日、838日、839日、840日、841日、842日、843日、844日、845日、846日、847日、848日、849日、850日、851日、852日、853日、854日、855日、856日、857日、858日、859日、860日、861日、862日、863日、864日、865日、866日、867日、868日、869日、870日、871日、872日、873日、874日、875日、876日、877日、878日、879日、880日、881日、882日、883日、884日、885日、886日、887日、888日、889日、890日、891日、892日、893日、894日、895日、896日、897日、898日、899日、900日、901日、902日、903日、904日、905日、906日、907日、908日、909日、910日、911日、912日、913日、914日、915日、916日、917日、918日、919日、920日、921日、922日、923日、924日、925日、926日、927日、928日、929日、930日、931日、932日、933日、934日、935日、936日、937日、938日、939日、940日、941日、942日、943日、944日、945日、946日、947日、948日、949日、950日、951日、952日、953日、954日、955日、956日、957日、958日、959日、960日、961日、962日、963日、964日、965日、966日、967日、968日、969日、970日、971日、972日、973日、974日、975日、976日、977日、978日、979日、980日、981日、982日、983日、984日、985日、986日、987日、988日、989日、990日、991日、992日、993日、994日、995日、996日、997日、998日、999日、1000日、1001日、1002日、1003日、1004日、1005日、1006日、1007日、1008日、1009日、1010日、1011日、1012日、1013日、1014日、1015日、1016日、1017日、1018日、1019日、1020日、1021日、1022日、1023日、1024日、1025日、1026日、1027日、1028日、1029日、1030日、1031日、1032日、1033日、1034日、1035日、1036日、1037日、1038日、1039日、1040日、1041日、1042日、1043日、1044日、1045日、1046日、1047日、1048日、1049日、1050日、1051日、1052日、1053日、1054日、1055日、1056日、1057日、1058日、1059日、1060日、1061日、1062日、1063日、1064日、1065日、1066日、1067日、1068日、1069日、1070日、1071日、1072日、1073日、1074日、1075日、1076日、1077日、1078日、1079日、1080日、1081日、1082日、1083日、1084日、1085日、1086日、1087日、1088日、1089日、1090日、1091日、1092日、1093日、1094日、1095日、1096日、1097日、1098日、1099日、1100日、1101日、1102日、1103日、1104日、1105日、1106日、1107日、1108日、1109日、1110日、1111日、1112日、1113日、1114日、1115日、1116日、1117日、1118日、1119日、1120日、1121日、1122日、1123日、1124日、1125日、1126日、1127日、1128日、1129日、1130日、1131日、1132日、1133日、1134日、1135日、1136日、1137日、1138日、1139日、1140日、1141日、1142日、1143日、1144日、1145日、1146日、1147日、1148日、1149日、1150日、1151日、1152日、1153日、1154日、1155日、1156日、1157日、1158日、1159日、1160日、1161日、1162日、1163日、1164日、1165日、1166日、1167日、1168日、1169日、1170日、1171日、1172日、1173日、1174日、1175日、1176日、1177日、1178日、1179日、1180日、1181日、1182日、1183日、1184日、1185日、1186日、1187日、1188日、1189日、1190日、1191日、1192日、1193日、1194日、1195日、1196日、1197日、1198日、1199日、1200日、1201日、1202日、1203日、1204日、1205日、1206日、1207日、1208日、1209日、1210日、1211日、1212日、1213日、1214日、1215日、1216日、1217日、1218日、1219日、1220日、1221日、1222日、1223日、1224日、1225日、1226日、1227日、1228日、1229日、1230日、1231日、1232日、1233日、1234日、1235日、1236日、1237日、1238日、1239日、1240日、1241日、1242日、1243日、1244日、1245日、1246日、1247日、1248日、1249日、1250日、1251日、1252日、1253日、1254日、1255日、1256日、1257日、1258日、1259日、1260日、1261日、1262日、1263日、1264日、1265日、1266日、1267日、1268日、1269日、1270日、1271日、1272日、1273日、1274日、1275日、1276日、1277日、1278日、1279日、1280日、1281日、1282日、1283日、1284日、1285日、1286日、1287日、1288日、1289日、1290日、1291日、1292日、1293日、1294日、1295日、1296日、1297日、1298日、1299日、1300日、1301日、1302日、1303日、1304日、1305日、1306日、1307日、1308日、1309日、1310日、1311日、1312日、1313日、1314日、1315日、1316日、1317日、1318日、1319日、1320日、1321日、1322日、1323日、1324日、1325日、1326日、1327日、1328日、1329日、1330日、1331日、1332日、1333日、1334日、1335日、1336日、1337日、1338日、1339日、1340日、1341日、1342日、1343日、1344日、1345日、1346日、1347日、1348日、1349日、1350日、1351日、1352日、1353日、1354日、1355日、1356日、1357日、1358日、1359日、1360日、1361日、1362日、1363日、1364日、1365日、1366日、1367日、1368日、1369日、1370日、1371日、1372日、1373日、1374日、1375日、1376日、1377日、1378日、1379日、1380日、1381日、1382日、1383日、1384日、1385日、1386日、1387日、1388日、1389日、1390日、1391日、1392日、1393日、1394日、1395日、1396日、1397日、1398日、1399日、1400日、1401日、1402日、1403日、1404日、1405日、1406日、1407日、1408日、1409日、1410日、1411日、1412日、1413日、1414日、1415日、1416日、1417日、1418日、1419日、1420日、1421日、1422日、1423日、1424日、1425日、1426日、1427日、1428日、1429日、1430日、1431日、1432日、1433日、1434日、1435日、1436日、1437日、1438日、1439日、1440日、1441日、1442日、1443日、1444日、1445日、1446日、1447日、1448日、1449日、1450日、1451日、1452日、1453日、1454日、1455日、1456日、1457日、1458日、1459日、1460日、1461日、1462日、1463日、1464日、1465日、1466日、1467日、1468日、1469日、1470日、1471日、1472日、1473日、1474日、1475日、1476日、1477日、1478日、1479日、1480日、1481日、1482日、1483日、1484日、1485日、1486日、1487日、1488日、1489日、1490日、1491日、1492日、1493日、1494日、1495日、1496日、1497日、1498日、1499日、1500日、1501日、1502日、1503日、1504日、1505日、1506日、1507日、1508日、1509日、1510日、1511日、1512日、1513日、1514日、1515日、1516日、1517日、1518日、1519日、1520日、1521日、1522日、1523日、1524日、1525日、1526日、1527日、1528日、1529日、1530日、1531日、1532日、1533日、1534日、1535日、1536日、1537日、1538日、1539日、1540日、1541日、1542日、1543日、1544日、1545日、1546日、1547日、1548日、1549日、1550日、1551日、1552日、1553日、1554日、1555日、1556日、1557日、1558日、1559日、1560日、1561日、1562日、1563日、1564日、1565日、1566日、1567日、1568日、1569日、1570日、1571日、1572日、1573日、1574日、1575日、1576日、1577日、1578日、1579日、1580日、1581日、1582日、1583日、1584日、1585日、1586日、1587日、1588日、1589日、1590日、1591日、1592日、1593日、1594日、1595日、1596日、1597日、1598日、1599日、1600日、1601日、1602日、1603日、1604日、1605日、1606日、1607日、1608日、1609日、1610日、1611日、1612日、1613日、1614日、1615日、1616日、1617日、1618日、1619日、1620日、1621日、1622日、1623日、1624日、1625日、1626日、1627日、1628日、1629日、1630日、1631日、1632日、1633日、1634日、1635日、1636日、1637日、1638日、1639日、1640日、1641日、1642日、1643日、1644日、1645日、1646日、1647日、1648日、1649日、1650日、1651日、1652日、1653日、1654日、1655日、1656日、1657日、1658日、1659日、1660日、1661日、1662日、1663日、1664日、1665日、1666日、1667日、1668日、1669日、1670日、1671日、1672日、1673日、1674日、1675日、1676日、1677日、1678日、1679日、1680日、1681日、1682日、1683日、1684日、1685日、1686日、1687日、1688日、1689日、1690日、1691日、1692日、1693日、1694日、1695日、1696日、1697日、1698日、1699日、1700日、1701日、1702日、1703日、1704日、1705日、1706日、1707日、1708日、1709日、1710日、1711日、1712日、1713日、1714日、1715日、1716日、1717日、1718日、1719日、1720日、1721日、1722日、1723日、1724日、1725日、1726日、1727日、1728日、1729日、1730日、1731日、1732日、1733日、1734日、1735日、1736日、1737日、1738日、1739日、1740日、1741日、1742日、1743日、1744日、1745日、1746日、1747日、1748日、1749日、1750日、1751日、1752日、1753日、1754日、1755日、1756日、1757日、1758日、1759日、1760日、1761日、1762日、1763日、1764日、1765日、1766日、1767日、1768日、1769日、1770日、1771日、1772日、1773日、1774日、1775日、1776日、1777日、1778日、1779日、1780日、1781日、1782日、1783日、1784日、1785日、1786日、1787日、1788日、1789日、1790日、1791日、1792日、1793日、1794日、1795日、1796日、1797日、1798日、1799日、1800日、1801日、1802日、1803日、1804日、1805日、1806日、1807日、1808日、1809日、1810日、1811日、1812日、1813日、1814日、1815日、1816日、1817日、1818日、1819日、1820日、1821日、1822日、1823日、1824日、1825日、1826日、1827日、1828日、1829日、1830日、1831日、1832日、1833日、1834日、1835日、1836日、1837日、1838日、1839日、1840日、1841日、1842日、1843日、1844日、1845日、1846日、1847日、1848日、1849日、1850日、1851日、1852日、1853日、1854日、1855日、1856日、1857日、1858日、1859日、1860日、1861日、1862日、1863日、1864日、1865日、1866日、1867日、1868日、1869日、1870日、1871日、1872日、1873日、1874日、1875日、1876日、1877日、1878日、1879日、1880日、1881日、1882日、1883日、1884日、1885日、1886日、1887日、1888日、1889日、1890日、1891日、1892日、1893日、1894日、1895日、1896日、1897日、1898日、1899日、1900日、1901日、1902日、1903日、1904日、1905日、1906日、1907日、1908日、1909日、1910日、1911日、1912日、1913日、1914日、1915日、1916日、1917日、1918日、1919日、1920日、1921日、1922日、1923日、1924日、1925日、1926日、1927日、1928日、1929日、1930日、1931日、1932日、1933日、1934日、1935日、1936日、1937日、1938日、1939日、1940日、1941日、1942日、1943日、1944日、1945日、1946日、1947日、1948日、1949日、1950日、1951日、1952日、1953日、1954日、1955日、1956日、1957日、1958日、1959日、1960日、1961日、1962日、1963日、1964日、1965日、1966日、1967日、1968日、1969日、1970日、1971日、1972日、1973日、1974日、1975日、1976日、1977日、1978日、1979日、1980日、1981日、1982日、1983日、1984日、1985日、1986日、1987日、1988日、1989日、1990日、1991日、1992日、1993日、1994日、1995日、1996日、1997日、1998日、1999日、2000日、2001日、2002日、2003日、2004日、2005日、2006日、2007日、2008日、2009日、2010日、2011日、2012日、2013日、2014日、2015日、2016日、2017日、2018日、2019日、2020日、2021日、2022日、2023日、2024日、2025日、2026日、2027日、2028日、2029日、2030日、2031日、2032日、2033日、2034日、2035日、2036日、2037日、2038日、2039日、2040日、2041日、2042日、2043日、2044日、2045日、2046日、2047日、2048日、2049日、2050日、2051日、2052日、2053日、2054日、2055日、2056日、2057日、2058日、2059日、2060日、2061日、2062日、2063日、2064日、2065日、2066日、2067日、2068日、2069日、2070日、2071日、2072日、2073日、2074日、2075日、2076日、2077日、2078日、2079日、2080日、2081日、2082日、2083日、2084日、2085日、2086日、2087日、2088日、2089日、2090日、2091日、2092日、2093日、2094日、2095日、2096日、2097日、2098日、2099日、2100日、2101日、2102日、2103日、2104日、2105日、2106日、2107日、2108日、2109日、2110日、	



高齢者のエンドオブライフケア・センサーとIoT機器

◆研究シーズの内容

1. 病院における高齢者のエンドオブライフケア質向上ツールの汎用性と有用性の検討

前段階の研究では、病院における高齢者の人生の最終段階のケアの質向上を目指すために、高齢者のエンドオブライフケア質指標とPDCAサイクルをもとに、看護職の基本姿勢と態度（看護のプロセス）、高齢者の状況に応じたケア（看護のプロセス）、組織の体制づくり（看護の構造）の8章と「質評価」「課題抽出」「質向上」「質再評価」の4領域で構成する「病院における高齢者のエンドオブライフケア質向上ツール」を作成しました。病院の1病棟の看護管理職と看護職、計11名にツールの6項目を使用し、使用によって、「ツールの評価項目をチェックすることで高齢者ケアの不十分な点を把握できた」「ツールは高齢者ケアの質向上のためのツールとして役立つ」などに関する有用性を確認できました。今後の研究では、病院と病棟の数を増やし、使用できなかった質向上ツールの項目を使用し、複数の病院の病棟におけるツールの汎用性と有用性を検討することを目的とします。

◆研究者からのメッセージ

デジタルトランスフォーメーションの発展に伴い、高齢者ケアにおけるIoT機器、センサーとロボットに関する研究を行いたいと考えています。

◆研究キーワード

高齢者のエンドオブライフケア、ケアの質評価と質改善、IoTとセンサー

第1章

第1領域：質評価

記載日： 年 月 日

記載者：

☐ 看護管理職 ☐ 3年目以上の看護職 ☐ 2年目の看護職

・看護管理職は、普段病棟で行っている高齢者ケアにおける看護職の基本姿勢と態度に照らし合わせて、5段階で評価してください。

・看護職は、普段自身が行っている高齢者ケアにおける看護職の基本姿勢と態度に照らし合わせて、5段階で評価してください。

	看護管理職	看護職
4	3	2
3	2	1
2	1	0
1	0	0
0	0	0

1. 看護職の基本姿勢と態度

カテゴリ	項目番号	項目	看護管理職	看護職
看護職の基本姿勢と態度	1)	目の前の高齢者がエンドオブライフを生活している人であると認識し、一人の人格ある個人として尊重する	4 3 2 1 0	4 3 2 1 0
	2)	高齢者・家族が望む医療・ケアを実現するために、その思いに寄り添い、信頼関係を構築する	4 3 2 1 0	4 3 2 1 0
	3)	倫理的問題に気付くために、日常ケアの出来事に対して、倫理的感受性（モヤモヤの感じ）を持ち、行動する	4 3 2 1 0	4 3 2 1 0

システム理論に基づく組織への支援

◆研究シーズの内容

1. 災害派遣チームのメンタルヘルスとチームの在り方について

災害支援者のメンタルヘルスに影響を与える因子について、個人内特性だけでなく、災害派遣チーム内の関係性や環境からの影響についても注目し研究を行っています。また、PTSDや惨事ストレスの低減、予防を目的としたチームの在り方についても明らかにしたいと考えています。その際に、チーム構成員に求められるコンピテンシーにも着目し、災害派遣チームにおける看護師や心理士について状況に応じた判断のもと、適切な行動を選択できる能力を解明することでコンピテンシーモデルを作成する予定です。

2. 日本でのオープンダイアログの実践可能性について

フィンランドで開発され日本の精神科医療でも注目されているオープンダイアログについて、日本でも実践していくために、日本の医療現場に合わせた方法について研究しております。

◆研究者からのメッセージ

精神看護とは対象との対人プロセスを通した生活援助が特徴的であると言えます。その実践課程においては、常に対象との相互作用（コミュニケーション）が展開しています。コミュニケーションを考える際には、対象についてだけを見立てるのではなく、自分と対象との間にどのような相互作用が展開されているのかを考える必要が出てきます。その際にシステム理論やナラティブ・アプローチに基づく考え方が必要であると考えております。

◆講義・研修可能な内容

- ・コミュニケーション：臨床心理学的知見やシステム理論を用いたコミュニケーションの見立てと技法を解説します。
- ・精神疾患を抱える人との関わり方：発達障害や気分障害等を抱える人との関わり方を解説します。

◆研究キーワード

システム理論 ナラティブ・ベイスト・メディスン





看護師が行う認知行動療法（CBT）の開発

◆研究シーズの内容

1. 身体合併例も含めた、不安や抑うつ、疼痛等の軽減のための看護師が行うCBTの開発

精神疾患が医療計画上の五大疾病となって久しいですが、精神疾患の予防や治療はいまだに国民的な課題です。国際的にも精神疾患は、DALY(Disability-adjusted Life Years：障害調整平均余命)によって示される疾病負担が、常に上位にあります。

方略として英国では、NHSによるIAPT(Improving Access to Psychological Therapies)という政策があります。IAPTの中心はEBMに基づく精神療法へのアクセス機会の増加による国民のメンタルヘルスの改善・向上であり、その中心はCBTの普及であるといえます。

日本でも2010年にうつ病に対するCBT治療が診療報酬化され、その後、不安症、強迫症、PTSD、神経性過食症等が診療報酬の対象となり、2016年度にうつ病のCBTは看護師も実施できることとなりました。しかし、いまだに普及したとは言えない状況です。普及のための方法の一つには、上記の疾患に対して行われる構造化された高強度といわれるCBTよりもさらに簡便で短時間で行える、いわゆる低強度のCBTを行うことや、疼痛軽減等のターゲットの拡張が考えられます。事実、前述の英国IAPTでも、看護師が行う低強度のCBTや身体疾患との合併例に対するCBTが効果を挙げています。日本版IAPTのためには、従事者数の多い看護師の活用と、低強度CBTや身体合併例への適用は考慮すべきと考えられます。

◆研究者からのメッセージ

CBTは、不適応状態に関連する患者の行動、感情、認知をターゲットに、不適応反応を軽減し適応的反応を学習させるエビデンスベースドで知られる心理的介入法です。別の考え方で物事にとらえなおしたり、考えこむ前に行動してみる、といった誰もが当たり前に行うやり方と本質的には変わらない方法でもあります。患者のより近いところにいるとされる看護師が行えたなら、それこそが普及となり、国民の健康にも資すると考えられます。

◆研究キーワード

CBT 低強度認知行動療法 身体合併 看護師

高下 翔 (Takashita Sho)

助手 基礎看護学領域



エコーを用いた全身麻酔患者に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 超音波画像診断装置（エコー）を用いた気管チューブカフ上部分泌物に関する研究

術後の呼吸器合併症として術後肺炎がありますが、気管チューブによる人工呼吸管理患者はカフ上部に分泌物が貯留します。気管チューブの抜管時に、カフ脱気に伴いカフ上分泌物が下気道に流入する可能性があるものの、カフ上部にどの程度分泌物が貯留しているかが明らかでないため、非侵襲的に評価できるエコーでカフ上部分泌物の貯留状況の評価に取り組んでいます。

◆研究者からのメッセージ

看護教育および看護技術開発に関する分野に関心があります。

◆研究キーワード

超音波画像診断装置（エコー） 気管チューブ カフ上部分泌物

福岡 友理恵 (Fukuoka Yurie)

助手 基礎看護領域



実地指導者に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 実地指導者の役割遂行状況と関連要因について

実地指導者は、新人看護師の臨床実践能力を高め、臨床現場と看護基礎教育の乖離を埋めるための重要で欠かせない存在ですが、困難感や負担感を抱えながら指導者役割を担っていることが先行研究から推測されます。このことから、現在、実地指導者の役割遂行を促進するものは何かという研究を行っています。

役割を遂行することに困難を感じている実地指導者を少なくし、実地指導者が新人看護師に対して適切な指導を行うことで、将来的には新人看護師の離職率の低減に繋がっていきたいと考えています。

◆研究者からのメッセージ

実地指導者の役割遂行や新人看護師への教育・支援などに関心があり、研究に取り組んでいます。

◆研究キーワード

実地指導者、役割遂行、支援状況

山中 大輔 (Yamanaka Daisuke)

助手 基礎看護領域



看護系大学におけるキャリア教育に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 看護系大学におけるキャリア教育の質向上を目指した研究

看護師国家試験を合格した後の、看護職の働く場所が多様化している現代において、1人でも多くの看護職が生涯にわたり“看護”と繋がっていくためには、看護基礎教育からキャリアについて考える素地の育成が必要なのではないかと考え、看護系大学におけるキャリア教育について研究をしています。

修士論文では、全国の看護系大学のシラバス調査を行い、キャリア教育の現状について明らかにしました。さらに、実際に必修科目としてキャリア教育科目を開講している大学の科目責任者を対象にしたインタビュー調査を行い、看護大学生にキャリア教育科目を教授する上での課題として、看護大学生の特徴・個人差に関する課題、看護系大学においてキャリア教育を教授する側の課題、行ったキャリア教育の教育効果の評価に関する課題の3つの課題があることを明らかにしました。

◆研究者からのメッセージ

1人でも多くの看護職が生涯“看護”と向き合い、繋がっていくことで、看護学が学問として発展していくことにも繋がっていくと考えております。今後の研究では、看護系大学におけるキャリア教育の質向上へ直接的に影響を及ぼす教育プログラムの開発を目指し日々取り組んでいきたいと考えております。

◆研究キーワード

キャリア教育 看護基礎教育

宝木 百代 (Takaragi Momoyo)

助手 在宅看護領域



介護支援専門員の医療職者との連携に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 介護支援専門員のターミナルケアマネジメントにおける医療職者との関係づくりについての研究

末期がん患者が自宅で最期を迎えるためには医療、介護の支援が必要となります。介護保険のサービスを受けるためには介護支援専門員の支援が不可欠です。また、介護支援専門員と医師・看護師の連携が図れることで、より質の高い在宅生活を送ることができると考えます。医療職者との連携が苦手な介護支援専門員が少しでもスムーズに関係づくりができるように、熟練介護支援専門員が行っている医療職者との関係づくりについて明らかにしました。熟練介護支援専門員は、ターミナルケアの実践を医療職者任せにせず、医療職者の専門職者としての価値観を受け止め、お互いが協調することを目指して関係を構築していました。今後は、本研究結果について広く介護支援専門員の方に知ってもらい、使ってもらうことができるよう、研究を深めていきたいと考えています。

◆研究者からのメッセージ

介護支援専門員の役割や重要性を知ってもらい、在宅看護における多職種との連携について、実践する多職種の方に活用していただく事ができるようにしたいと考えています。

◆研究キーワード

在宅 介護支援専門員 ターミナルケア 専門職連携 訪問看護

石原 佳代子 (Ishihara Kayoko)

助手 成人看護領域



看護職・介護職の口腔ケアに関する研究

◆研究シーズの内容

1. 介護保険施設の口腔ケアに関する研究

我が国では少子高齢化による介護職員不足が課題であり、介護を支えるために外国人介護職員の方の存在が欠かせない状況となっています。今後、看護職と外国人介護職員との連携が重要になると考え、外国人介護職員の方の口腔ケアの実態や外国人介護職員の方に対する指導体制に関する研究を行なっています。

2. 看護職の口腔ケアに関する研究

医療施設に勤務する看護職の口腔ケアに対する認識や口腔ケアの教育ニーズに関する研究に携わらせていただいています。

3. 看護学生の口腔ケアの啓発

看護学生を対象として、口腔ケアの学習や日本口腔ケア学会が認定する資格取得のサポートを行っています。

◆研究者からのメッセージ

口腔ケアを必要とする方に、安全で適切な口腔ケアを提供するための方法や支援について役立てる研究に取り組んでいきたいと考えています。

◆研究キーワード

口腔ケア 高齢者 看護学生



口腔ケアに関する
書籍を出版

草深 真菜 (Kusabuka Mana)

助手 母性看護領域



産科病棟の災害対策に関する研究

◆研究シーズの内容

妊産婦や乳幼児は災害時要配慮者であり、分娩や授乳など産科に特化した対応が必要となります。南海トラフ巨大地震の発生が高い確率で予測される中、災害時にも妊産婦や褥婦、新生児の安全を守り、ケアを提供し続けるために役立てられる研究をしたいと考えています。現在は、全国産科病棟を対象に、産科に特化した災害対策の内容について調査し、一助となるべく研究を進めています。

◆研究者からのメッセージ

災害が起きたとき、医療を提供する側である職員の方々も被災者となります。患者さんと患者さんを守る医療従事者の両方の安全のために、災害対策について引き続き研究をしていきたいと考えています。

鳥居 賀乃子 (Torii Kanoko)

助手 小児看護領域



新生児看護・小児看護に関する研究

◆研究シーズの内容

1. 新生児集中治療室（NICU）におけるエンドオブライフケアに関する研究

言葉での意思表示が困難な新生児の最善の利益を考えたエンドオブライフケアに関する研究に取り組んでいます。

2. 小児看護学領域における教育活動に関する研究

小児看護学領域での学生の学びを支援する基礎教育に関する研究に取り組んでいきたいと考えています。

◆研究者からのメッセージ

子どもたちや家族へのケアについて、新生児看護・小児看護を実践されている方々と共に取り組んでいきたいと考えています。

◆研究キーワード

新生児看護、新生児集中治療室、NICU、小児看護



大学院紹介

大学院

看護学研究科 修士課程・博士課程

修士課程 看護学専攻

標準修業年限：2年
定員：10名
学位：修士（看護学）

高度な専門性と研究・教育能力を養い、看護学の発展に寄与する人材を養成

修士課程は、赤十字の基本原則に基づく専門教育機関として2010年に開設しました。保健・医療・福祉の現場で高度な専門性を発揮できる看護職者や看護管理者、看護学の発展に寄与する研究・教育者の養成を目指します。



研究科長 挨拶

研究科長 長谷川 喜代美

多様化する健康課題にアプローチする 看護実践の追究

「人生100年時代」と言われ、あらゆる人が健康で安心して暮らせる社会の実現が重要な課題となっています。個人や家族の暮らし方が多様化する中で、医療やケアを様々なかたちで日常生活に組み込みながら、その人が望む生活を継続する支援が求められています。このような状況に対応するには、言語化・意識化が難しい看護の実践知を可視化し、実践に活用できる方法を創出していく必要があります。臨床や教育の現場で感じている疑問を探求し、よりよい看護を実現するために、大学院で研究に取り組んでみませんか。看護学の知の構築を共に目指しましょう。

教育目標

- 01 赤十字の基本原則を理解し、看護学の発展に寄与できる看護職者を育成する。
- 02 看護学の専門分野における創造的な問題解決能力を有する研究・教育者を育成する。
- 03 看護学の専門分野における卓越した実践能力を有する専門看護師・看護管理者を育成する。

アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

- 01 本学の建学の精神に共感できる人
- 02 専門分野における基礎知識を有している人
- 03 科学論文を理解するための基礎的な英語力を有している人
- 04 論文作成の基盤となる文章の読解力と論述力を有している人
- 05 基礎的な看護実践能力を有している人
- 06 将来的に看護研究者・実践者として貢献する意志のある人

詳しくはこちらから ▶



ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

修士課程に所定の期間在学し、本研究科の修了要件となる単位数を修得するとともに、論文の審査および最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に、修士（看護学）の学位を授与します。

● 研究・教育者コース

- 01 赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。
- 02 看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。
- 03 看護における人材育成に寄与できる教育能力を有している。
- 04 研究内容を論理的に説明できる能力を有している。

● 専門看護師・認定看護管理者コース

- 01 赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。
- 02 専門領域における卓越した看護実践能力を有している。
- 03 多職種・多機関と協働・調整できる能力を有している。
- 04 看護実践上の課題を解決するための研究能力を有している。

研究者・教育者・高度実践者を養成する課程を開設

医療現場では、高度な専門性を備えた看護職者が求められています。また看護学の進歩と発展に貢献する研究者・教育者の育成も急務です。日本赤十字豊田看護大学では、こうした社会的要請に応える大学院を開設しています。

研究・教育者 コース

看護が必要な様々な場において現場の課題を追求できる研究者や、大学などの教育機関の教育者として活躍する人材の養成を目的としています。3分野9領域で専門性を高め、思考力・教育力・研究力などの能力の開発を目指します。

基盤育成看護学

看護管理学
看護教育・技術学

ケア創生看護学

成人看護学
母性看護学
小児看護学

地域共生看護学

老年・在宅看護学
精神看護学
地域看護学
災害看護学

専門看護師 コース

幅広い専門知識とアセスメント力を身につけ、高度な実践力をもって活躍する専門看護師の養成を目的としています。日本看護系大学協議会の認可を受けた教育課程です。修了後は、日本看護協会の小児看護専門看護師、精神看護専門看護師、老年看護専門看護師の受験資格を得られます。

ケア創生看護学

小児看護学

地域共生看護学

老年・在宅看護学
精神看護学

認定看護管理者 コース

看護管理学を体系的に学び、看護管理のスペシャリストとして創造的に組織を改革できる視点や能力を身につけた人材の養成を目的としています。看護師長以上の看護管理者経験が3年以上あれば、修了後は、日本看護協会認定看護管理者の受験資格を得られます。

基盤育成看護学

看護管理学

修了生メッセージ

私は約2年間看護専門学校の専任教員をしていました。学生に看護を教える立場になった時、改めて看護とは？と考えさせられ、そんな時に当校の履修証明プログラムを知り、受講を決めました。授業ではこれまでの自分の看護経験を振り返りながら、その意味を考えることができ、自然と修士課程に進みたいと思うようになりました。

修士課程では看護を体系的に学び、多様な視点で看護を捉えることや研究のノウハウを学ぶことができました。修了後は臨床に戻り継続教育にも携わっていますが、看護や教育を考える様々な場面において修士課程で得た知識や看護の考え方が活かされていると感じています。



国家公務員共済組合連合会 名城病院 看護師長

近 直子さん

多様な学びの機会の提供

最初から、全科を学ぶ時間はない、一部だけ大学院の教育を受けてみたいという人には、以下の制度があります。これらの制度で修得した単位は、本学大学院入学時には、既修得単位として、最大15単位まで修了要件の単位数に含めることができます。

科目等履修生

大学院で開講されている科目を1科目から学ぶことができます。

募集時期

前期：1月頃／後期：7月頃

履修証明プログラム

専門的な能力を向上するために体系的に学べる教育プログラムです。

募集時期

1月頃

詳しくは
こちらから



【履修証明プログラム】

本大学院では社会人などを対象として3つの履修証明プログラムを開設しています。これらのプログラムは職業に必要な能力の向上をはかる「職業実践力育成プログラム(BP)」としての認定を受けています。修了者に対して、日本赤十字豊田看護大学 学長名の「履修証明書」が交付されます。



看護教育プログラム

4科目：6単位

臨床現場で教育・指導を行う際に必要となる基本的な知識や教育方法論を理解し、臨床現場における新人教育や現任教育に適用する能力を育成することを目指した看護の専門職業人のための教育プログラムです。

看護研究プログラム

4科目：7単位

看護研究を行う際に必要となる基本的な知識や統計学などの基本、量的・質的研究方法論の概要を修得し、臨床研究に適用する能力を育成することを目指した看護の専門職業人のための教育プログラムです。

災害看護実践プログラム

4科目：2単位

災害時、看護職が人々に寄り添い、生命と健康を守るために多職種と連携した活動をするために必要な知識・技術、能力の育成を目指したプログラムです。特に自施設が被災したときの対応について具体的に学べるよう、講義・演習・実習を組み合わせた実践プログラムです。

科目等履修生

履修証明プログラム

大学院の各コースへの入学

※ 科目等履修生制度、履修証明プログラムによって修得した単位は、本学大学院入学時に既修得単位として修了要件の単位数に含めることができます。(最大15単位まで)

科目等履修生制度を利用した学生の声

私は、看護師として働くことは自己のキャリアとして続けたい、でも学びたいという気持ちも強く持っていました。しかし、3年間での履修に不安を感じていた時に科目等履修生制度があることを知り、まずここから始めてみて、大学院で働きながら学べるかをチャレンジすることにしました。科目等履修生制度を利用し、入学前年に看護理論や看護倫理をはじめ、共通科目5科目の単位を修得しました。入学後は、学修する時間が限られているため、共通科目をある程度修得していたことで、専門科目や研究題材の検討、ゼミで文献を読んだりすることに時間を費やすことができました。

トヨタ記念病院 看護長

田野辺 和美さん



学びのサポート

働きながら学びたい、収入が少ないけれど大学院だけに集中したい、
様々な学び方を希望する人を、学び方に合わせてサポートする制度があります。

詳しくは
こちらから



働きながら学ぶための支援体制

01 昼夜開講

大学院設置基準第14条（教育方法の特例）を適用し、平日日中に加えて、平日夜間、土曜も開講します。一部の授業では遠隔授業を行っています。

02 サテライトキャンパス（名古屋市）

サテライトキャンパスを日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院（名古屋市昭和区）南の日赤愛知災害管理センターの中に設置し、大学院の授業を行う講義室、情報処理室を整備しています。

03 長期履修制度

2年間の学納金で3年間学習することができる長期履修制度を整備しています。

●2年間で修了する場合

（円）

区分		1年目	2年目
入学金		320,000	—
授業料	前期	340,000	340,000
	後期	340,000	340,000
維持運営費	前期	100,000	100,000
	後期	100,000	100,000
合計		1,200,000	880,000

●長期履修制度を利用して3年間で修了する場合

（円）

区分	1年目	2年目	3年目
入学金	320,000	—	—
授業料（年額）	454,000	453,000	453,000
維持運営費（年額）	140,000	130,000	130,000
合計	914,000	583,000	583,000

学費のサポート

01 入学金の減免

1. 日本赤十字豊田看護大学及び日本赤十字愛知短期大学を卒業した者又は見込みの者は、全額を免除します。

2. 下記の入学者は半額を免除します。

① 上記1以外の学校法人日本赤十字学園が設置する大学を卒業した者又は卒業見込みの者

② 上記1以外の学校法人日本赤十字学園が設置する短期大学を卒業した者

③ 日本赤十字社看護師等養成施設等を卒業した者

④ 学校法人日本赤十字学園又は日本赤十字社の職員

※詳細は、企画・地域交流課

〔TEL. (0565) 36-5111〕までお問い合わせください。

02 一般教育訓練給付制度

本学の大学院修士課程は、「一般教育訓練給付制度厚生労働省指定講座」です。就労中で雇用保険の被保険者の方または被保険者であった離職者は、課程修了後に本人がハローワークに申請することで、教育訓練施設に支払った教育訓練経費の20%に相当する額（上限10万円）がハローワークから支給されます。

※支給の条件等、詳細はハローワークにお問い合わせください

特別枠（学内進学）について

令和5年度入試より、本学の看護学部から大学院修士課程研究・教育者コースへ入学できる特別枠（学内進学）制度を開始しました。

出願の条件は以下の2点です。

- ・成績上位（3年生後期までの総合成績が20位以内）
- ・進学希望の研究指導教員と事前に面談を行い、内諾を书面で得ている。

※上記、特別枠の対象者でない場合でも大学院推薦入試での進学の道も開かれています。



長期履修制度を利用した修了生の声

私は、小児病棟に勤務しながら長期履修制度で小児看護専門看護師コースを履修し、2022年に小児看護専門看護師の資格を取得しました。専門看護師コースは履修する単位数が多いため、仕事との両立ができるか心配でしたが、受講しやすい講義時間や仕事に支障がないようにゼミ等の日時を配慮していただいたおかげで両立することができました。臨床で感じている課題に対し、ディスカッション等でタイムリーに学びを深めることができ、すぐに臨床で生かすことができるのは、仕事と学業を両立しているメリットの一つだと思います。在学中から実践を積み重ねることができたことは、現在の小児看護専門看護師としての活動にも役立っていると思います。

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 小児看護専門看護師

後藤 美名子さん



研究指導教員の研究活動

研究指導をを担当する教員名と、各領域の教員の研究活動について紹介します。
各教員への連絡先や詳細はHPを参考にしてください。

詳しくは
こちらから



看護管理学

主研究指導教員：南谷志野 教授

看護職のキャリアや多様な人材の活用、働き続けられる職場環境など、看護管理学に関連する理論や知識に基づいて、ミクロ・マクロの視点から現場の課題や政策に関する課題についての研究を行っています。

看護教育・技術学

主研究指導教員：山田聡子 教授

看護基礎教育や継続教育などの人材育成に関する課題、看護技術の開発や習得に関する課題、そして看護倫理に関する課題に取り組んでいます。変化し続ける社会のニーズに柔軟に対応する教育のあり方やケアサイエンスの構築を模索していきます。

成人看護学

主研究指導教員：東野督子 教授
カルデナス暁東 教授

周手術期にある患者やクリティカルケアを必要とする患者の回復過程および家族への看護、感染予防に関する看護、慢性病をもつ患者・家族が病とともに生きるプロセスを支えるための方法を探求しています。

母性看護学

主研究指導教員：野口真弓 教授

周産期および女性のライフサイクル全般にわたる健康課題に関する研究を行っています。産後うつや低減や母乳育児の促進、育児をする父母の社会的支援など、助産師が関わる幅広い課題に取り組んでいます。

小児看護学

主研究指導教員：岡田摩理 教授

重症心身障害や医療的ケア、発達障害などの課題をもつ子どもと家族への看護、子育て支援やプレパレーションなどの子どもが健やかに育ち家族と生き生きと暮らせる支援、小児看護の基礎教育に関する研究に取り組んでいます。

老年・在宅看護学

主研究指導教員：百瀬由美子 教授
小林尚司 教授

老化や疾病により日常生活に困難がある高齢者のその人らしい生活を支えるための研究に取り組んでいます。療養や生活の場における課題や多職種連携に関する課題など、幅広い視点での研究を行います。

精神看護学

精神的な健康課題をもつ人の精神状態の判断基準や、看護援助の特徴、家族の支援に関する研究に取り組んでいます。心の病への看護を切り口として、自己と向き合いながら看護を探究します。

地域看護学

主研究指導教員：長谷川喜代美 教授
森田一三 教授

行政分野の保健師の活動や、地域住民による保健活動に関する課題について取り組んでいます。地域における健康課題を構造的にとらえ、様々な関係者と連携・協働していく公衆衛生の活動についても探究しています。

災害看護学

共に生活するという相互支援の視点に立ち、様々な災害による被災者が健康な生活を送れるような防災、応援・受援や、看護活動に関する課題に取り組んでいます。赤十字の災害救護の歴史を振り返り、多発する災害に弾力的に対応する看護を探究します。

修了生の主な研究内容

研究・教育者 コース

- ・通所事業所を利用する要支援高齢者の口腔への関心と関連する要因（令和3年度：成人看護学）
- ・妊産婦の抑うつとその経時的変化の要因に関する研究（令和3年度：母性看護学）
- ・一般病院小児病棟のレスパイトケアにおける看護の実態および看護師の認識と困難感（令和4年度：小児看護学）
- ・看護師の学習に対するニーズと組織文化の関連（令和5年度：看護管理学）
- ・看護系大学におけるキャリア教育科目の現状と課題（令和5年度：看護教育・技術学）

専門看護師 コース

- ・長期入院した子どもをもつ家族の家族機能のアセスメント方法（令和2年度：小児看護学）
- ・NICUに入院した医療的ケアのない低出生体重児と母親にかかわる退院支援看護師の活動の現状と課題（令和3年度：小児看護学）

認定看護管理者 コース

- ・日本赤十字社に所属する看護管理者ではない看護職の事業管理要員としての国際活動（令和4年度：看護管理学）
- ・在宅において特定行為を実践している看護師と主治医との連携（令和5年度：看護管理学）

博士課程 共同看護学専攻

標準修業年限：3年
定員：10名（各大学2名）
学位：博士（看護学）

5つの赤十字の看護大学が共同し、教育・研究指導を実施

共同看護学専攻は、学校法人日本赤十字学園が運営する5大学が共同で開設した博士課程です。Zoomアプリを使った遠隔授業では、学籍を置く大学の教員のみならず、5つの大学の多様な教員の講義や指導を受けることができ、学生同士の討議や交流も行うことができます。所属大学以外の学内施設についても、事前の届け出を行うことで、各大学で定められた時間内で利用が可能です。

※学生の所属は、主指導教員の在籍大学になります。



教育目標

共同看護学専攻では、次のような能力を養うことを目標とします。

- 01 研究者として、自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力を養う。
- 02 知的な教養と柔軟性、先見性を兼ね備え、質の高い看護学の教育を行うための教育開発能力、教育能力、課題解決能力を養う。
- 03 臨床看護実践や教育の場において、リーダーとして活動するための俯瞰力と指導・調整力を養う。
- 04 国内外の保健・医療・福祉の分野で広く活躍できる能力を養う。

アドミッション・ポリシー

共同看護学専攻では、赤十字の理念である「人道(humanity)」のもとに、学際的な視野から独創的な学術研究により看護学の発展に寄与できる能力を備えた人材の育成を目指します。次のような資質と能力、意欲をもった人材を幅広く求めています。

- 01 赤十字の「人道(humanity)」の理念に共感し、高い倫理性を備え、多職種と協働しながら、看護を発展させる意欲のある人
- 02 修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力を有し、保健・医療・福祉の専門知識を持つ人
- 03 独創的な研究に取り組むための基礎的な力を有している人
- 04 研究を遂行するための基礎的な英語の読解力を有する人

ディプロマ・ポリシー

修了要件となる単位を修得するとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格し、次の条件を満たすものに博士（看護学）の学位を授与します。

- 01 看護学の専門性を探求し、学際的な視野から独創的な学術研究を自立して推進する能力を有している。
- 02 研究成果を発信し、社会に還元する能力を有している。
- 03 看護教育・研究・実践において、指導的立場を担い、看護学の発展に寄与できる能力を有している。

研究指導教員



教授 百瀬 由美子

フレイル予防、認知症高齢者ケア、家族介護者支援、老年・在宅看護学領域における倫理的課題等に関する研究指導を行う。



教授 長谷川 喜代美

行政分野の保健師の活動に関する課題、地域ケア体制の構築における保健師の役割、人材育成の在り方と方法等に関する研究指導を行う。



教授 山田 聡子

看護基礎教育における看護倫理教育の在り方と方法に関する課題や、臨地実習指導における指導者役割と指導方法に関する課題に焦点をあてた研究指導を行う。



教授 東野 督子

医療関連や療養環境における感染を予防するための専門的な援助方法や、口腔ケア、教育プログラム、急性期状況にある人への支援に関する研究指導を行う。



教授 野口 眞弓

在院日数の短縮化の中での母乳育児に関するケアの充実、および、それを支えるサポート体制づくりに関する研究指導を行う。



教授 カルデナス暁東

自己免疫疾患など慢性疾患をもつ患者とその家族の療養生活における自己管理、また外見上に課題を抱える患者の生活の質を高める看護支援に関する研究指導を行う。

連絡先・研究テーマ・主要著書・論文はHPでご確認ください ▶



学納金

● 3年間で修了する場合

(円)

区分		1年目	2年目	3年目
入学金		400,000	—	—
授業料	前期	400,000	400,000	400,000
	後期	400,000	400,000	400,000
維持運営費	前期	150,000	150,000	150,000
	後期	150,000	150,000	150,000
合計		1,500,000	1,100,000	1,100,000

※長期履修制度を利用した場合も3年制の総額で学べます。
※博士課程も「一般教育訓練給付制度」を利用できます。

修了生メッセージ

私は、仕事を臨床から大学教育の場に変えることをきっかけに博士課程への進学を決めました。日赤豊田看護大は、修士課程で小児看護専門看護師の育成に取り組んでおり、小児看護学分野に精通した教授のもとで学びたいと思い選びました。共同看護学専攻は、5大学の著名な教授陣の講義が受講でき、研究に対して多くの指導が受けられたため、教育者・研究者としての力を養うことができました。また、大学間のネットワーク環境が整っており、遠隔地であっても講義や研究指導をスムーズに受けることができました。在学中は何度も挫けそうになりましたが、その度に指導教授の親身な対応や熱心な指導に後押しされ、最後まで頑張ることができました。

藤田医科大学 准教授

田崎 あゆみさん

